

平成25年3月25日
調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
(平成24年度 第2回)

調査・設計等業務に関する 入札・契約の実施状況 (平成23年度年次報告・詳細版)

国土技術政策総合研究所

年次報告の作成の目的

本年次報告は、適切な入札・契約の実施、低入落札防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応するために、国土交通省における調査・設計等業務に関する入札・契約の実施状況をとりとまとめ、公表するものである。

目 次

1. 調査・設計等分野の契約状況	
(1) 調達方式別発注件数の推移(全業種計、土木／測量／地質)	P1-1
(2) 調達方式別当初契約額の推移(全業種計、土木／測量／地質)	P1-3
(3) 業種別・予定価格帯別「総合評価落札方式」発注件数(平成23年度)	P1-5
(4) 配点比率別「総合評価落札方式」発注件数の推移(全業種計／土木／測量／地質)	P1-6
(5) 調達方式別予定価格帯別発注件数(平成23年度)	P1-7
(6) 予定価格帯別発注件数の推移(全業種計／土木／測量／地質)	P1-8
(7) 契約月別発注件数の推移(全業種計／土木／測量／地質)	P1-9
(8) 早期発注の取り組み状況(予定価格2,000万円超の業務)	P1-10
2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)	
(1) 競争参加の状況(平成23年度)	P2-1
(2) 入札率分布の推移	P2-2
(3) 落札率分布の推移	P2-3
(4) 業種別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度、価格競争:平成23年度)	P2-4
(5) 四半期別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度、価格競争:平成23年度)	P2-6
(6) 予定価格帯別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度、価格競争:平成23年度)	P2-8
(7) 低入落札発生状況(総合評価・価格競争別／業務規模別 経年変化)	P2-10

目次 (つづき)

3. 総合評価落札方式の運用実態	
(1) 入札率の分布(経年変化)	P3-1
(2) 入札者の技術点得点率の分布(経年変化)	P3-2
(3) 入札率・落札率の分布(配点比率別:平成23年度)	P3-3
(4) 入札者・落札者の技術点得点率の分布(配点比率別:平成23年度)	P3-4
(5) 価格点1位と2位の評価点差分布(経年変化)	P3-5
(6) 技術点1位と2位の評価点差分布(経年変化)	P3-6
(7) 価格点1位と2位の評価点差分布(配点比率別:平成23年度)	P3-7
(8) 技術点1位と2位の評価点差分布(配点比率別:平成23年度)	P3-8
(9) 総合評価(土木1:1、土木1:2、土木1:3)の平均的な姿と経年変化	P3-9
(10) 落札者の状況(順位評価:全体)	P3-12
(11) 落札者の状況(順位評価:全業種計/土木/測量/地質)(平成23年度)	P3-13
(12) 落札者の状況(順位評価:比率別)(平成23年度)	P3-14
(13) 落札者の「入札率-調査基準価格率」と「技術点の得点率」の関係(経年変化)	P3-15
(14) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「価格点の得点率差」と「技術点の得点率差」の関係(経年変化)	P3-16
(15) 落札者の「入札率-調査基準価格率」と「技術点の得点率」(配点比率別)の関係	P3-17
(16) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「価格点の得点率差」と「技術点の得点率差」の関係(配点比率別)	P3-18
【参考1】落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の逆転可能性シミュレーション(全業種合計)(経年変化)	P3-19
【参考2】落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の逆転可能性シミュレーション(全業種合計)(配点比率別)(平成23年度)	P3-20
4. 業務成績の関係(平成23年度)	
(1) 調達方式・配点比率と業務成績評定点の関係	P4-1
(2) 低入落札・非低入落札と業務成績評定点	P4-2
(3) 技術点の順位と業務成績評定点	P4-3

1. 調査・設計等分野の契約状況

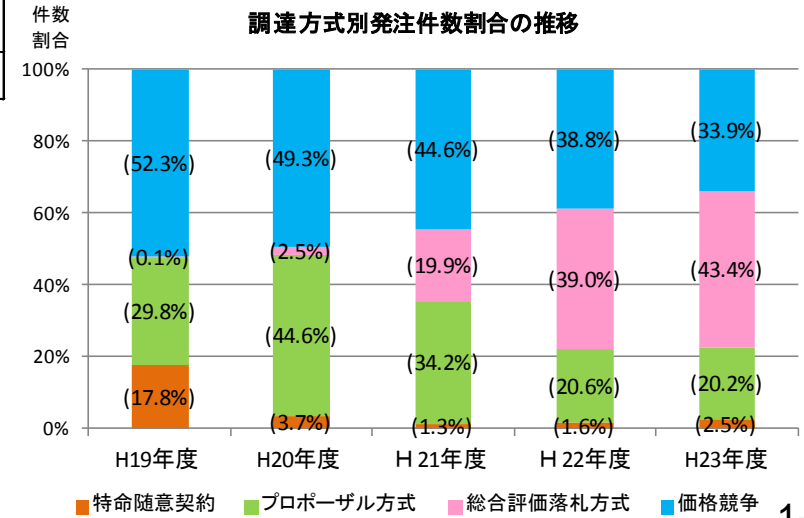
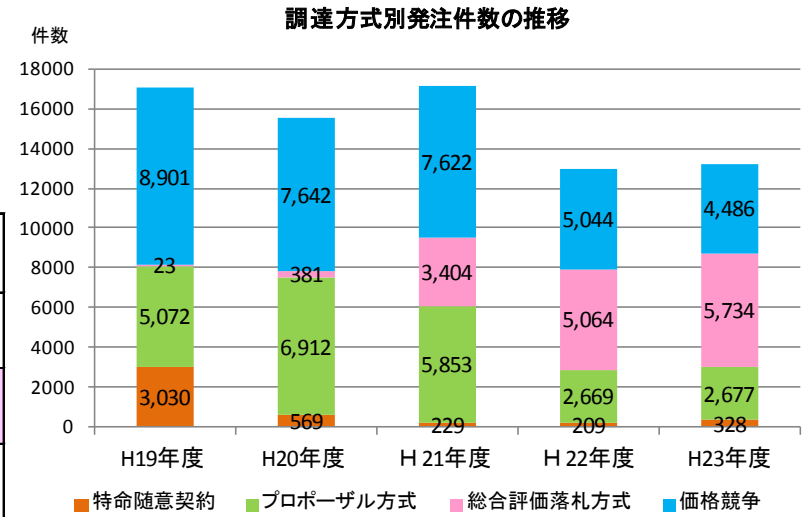
(1) 調達方式別発注件数の推移(全業種計)

- ・平成23年度発注件数は、東日本大震災復興に関する補正予算等もあり、前年度に比べて1.8%増加した。
- ・平成23年度の調達方式別の発注件数割合は、平成22年度と比較して、プロポーザル方式は前年度とほぼ同じ割合であったが(20.6%→20.2%)、価格競争が減少し(38.8%→33.9%)、総合評価落札方式が増加した(39.0%→43.4%)。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況(単位:件数)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	増減率 (H23-H22)/H22
価格競争	8,901 (52.3%)	7,642 (49.3%)	7,622 (44.6%)	5,044 (38.8%)	4,486 (33.9%)	-11.1%
総合評価落札方式	23 (0.1%)	381 (2.5%)	3,404 (19.9%)	5,064 (39.0%)	5,734 (43.4%)	13.2%
プロポーザル方式	5,072 (29.8%)	6,912 (44.6%)	5,853 (34.2%)	2,669 (20.6%)	2,677 (20.2%)	0.3%
特命随意契約	3,030 (17.8%)	569 (3.7%)	229 (1.3%)	209 (1.6%)	328 (2.5%)	56.9%
合計	17,026	15,504	17,108	12,986	13,225	1.8%

※対象は北海道開発局および8地方整備局発注の業務

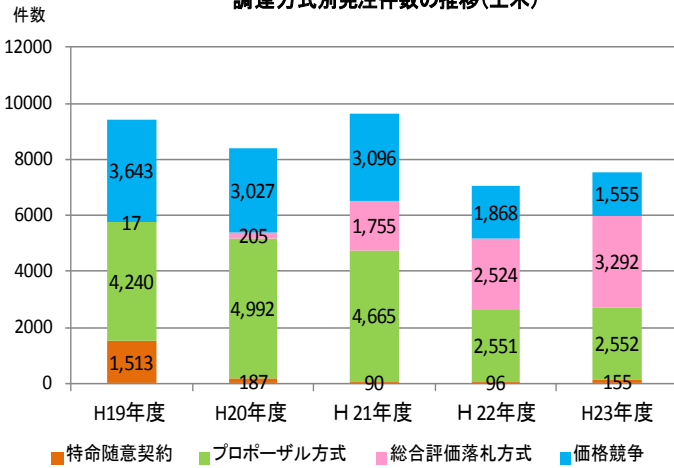


1. 調査・設計等分野の契約状況

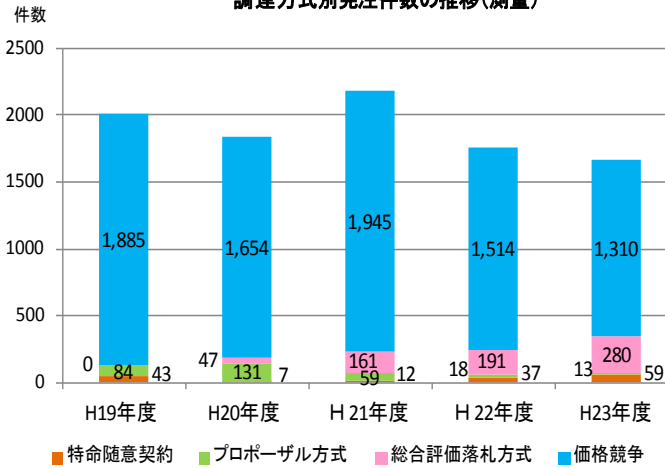
(1) 調達方式別発注件数の推移(土木／測量／地質)

- ・平成23年度の土木業務の発注件数割合は、プロポーザル方式が33.8%、総合評価落札方式が43.6%、価格競争が20.6%となっており、平成22年度に比して総合評価落札方式による発注割合が増加している。
- ・測量業務及び地質業務では、平成23年度においても価格競争による発注件数割合が最も多いが、年々、総合評価落札方式による発注割合が増加している(平成23年度は、測量業務で16.8%、地質業務で31.7%が総合評価落札方式)。

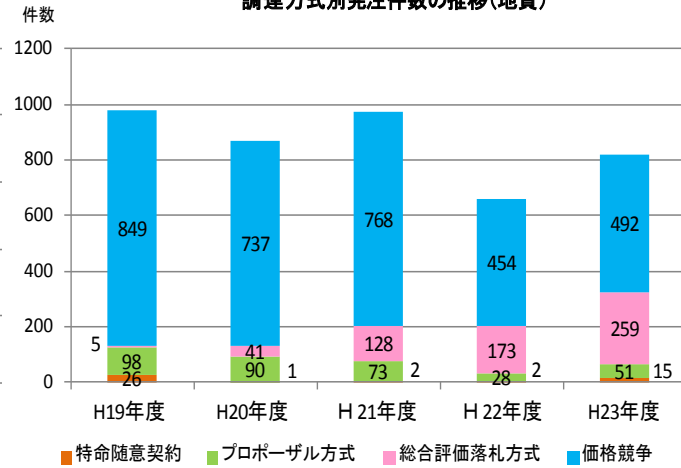
調達方式別発注件数の推移(土木)



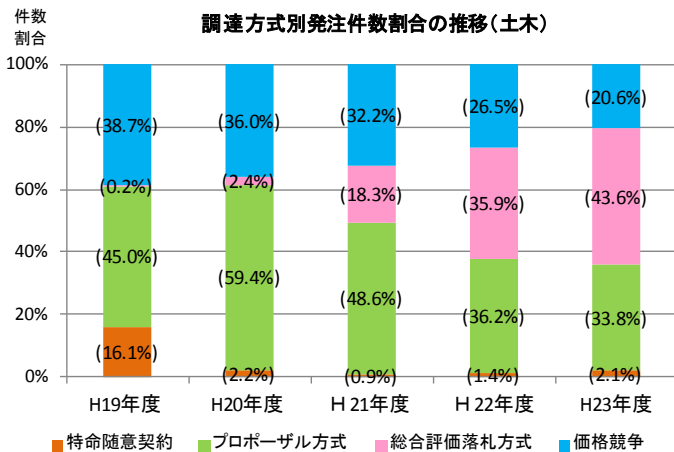
調達方式別発注件数の推移(測量)



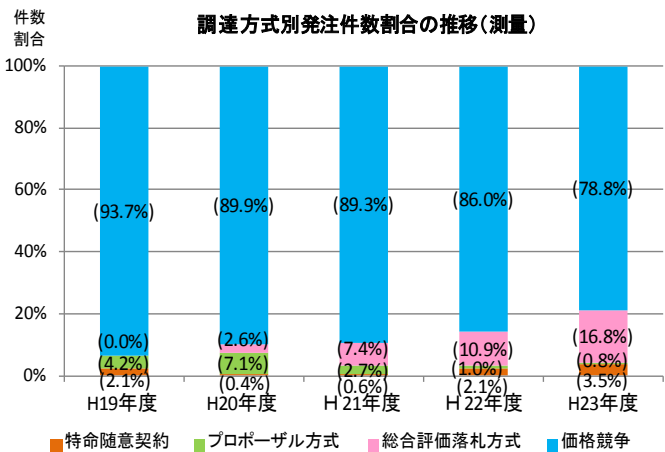
調達方式別発注件数の推移(地質)



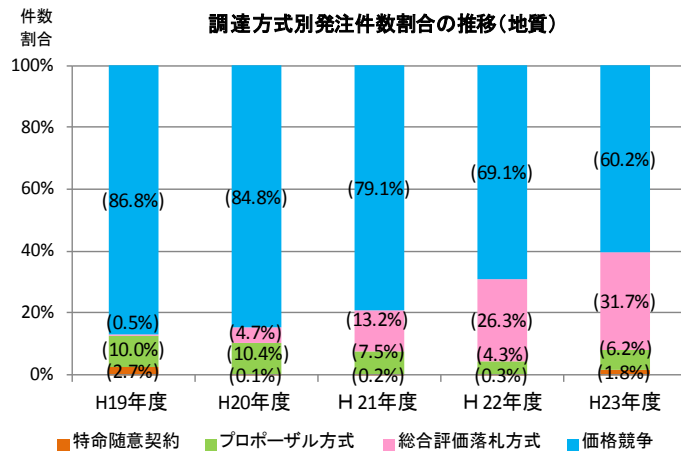
調達方式別発注件数割合の推移(土木)



調達方式別発注件数割合の推移(測量)



調達方式別発注件数割合の推移(地質)



1. 調査・設計等分野の契約状況

(2) 調達方式別当初契約額の推移(全業種計)

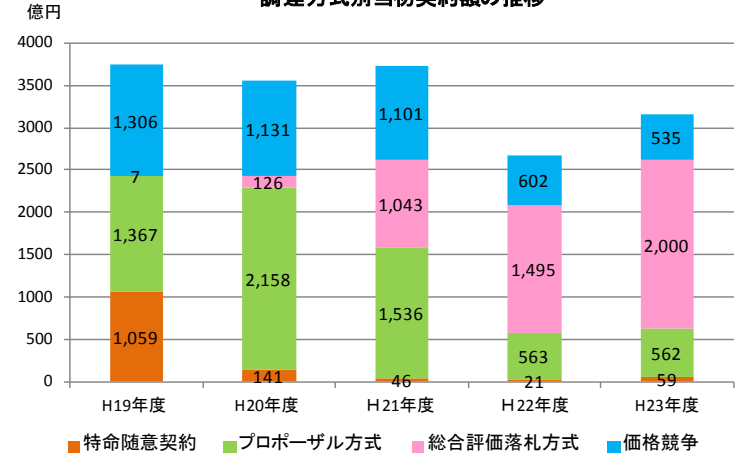
- ・平成23年度当初契約額は、東日本大震災復興に関する補正予算等もあり、前年度に比べて17.8%増加した。
- ・平成23年度の調達方式別の当初契約額割合は、平成22年度と比較して、プロポーザル方式(21.0%→17.8%)と価格競争(22.5%→16.9%)が減少し、総合評価落札方式は増加した(55.8%→63.4%)。

地方整備局等(港湾空港除く)における当初契約額の状況(単位:億円)

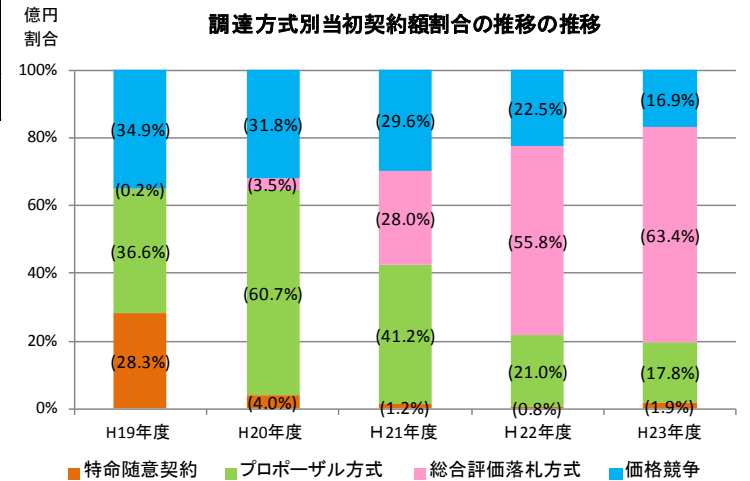
	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	増減率 (H23-H22)/H22
価格競争	1,306 (34.9%)	1,131 (31.8%)	1,101 (29.6%)	602 (22.5%)	535 (16.9%)	-11.1%
総合評価落札方式	7 (0.2%)	126 (3.5%)	1,043 (28.0%)	1,495 (55.8%)	2,000 (63.4%)	33.8%
プロポーザル方式	1,367 (36.6%)	2,158 (60.7%)	1,536 (41.2%)	563 (21.0%)	562 (17.8%)	0.0%
特命随意契約	1,059 (28.3%)	141 (4.0%)	46 (1.2%)	21 (0.8%)	59 (1.9%)	187.2%
合計	3,739	3,556	3,727	2,680	3,157	17.8%

※対象は北海道開発局および8地方整備局発注の業務

調達方式別当初契約額の推移



調達方式別当初契約額割合の推移

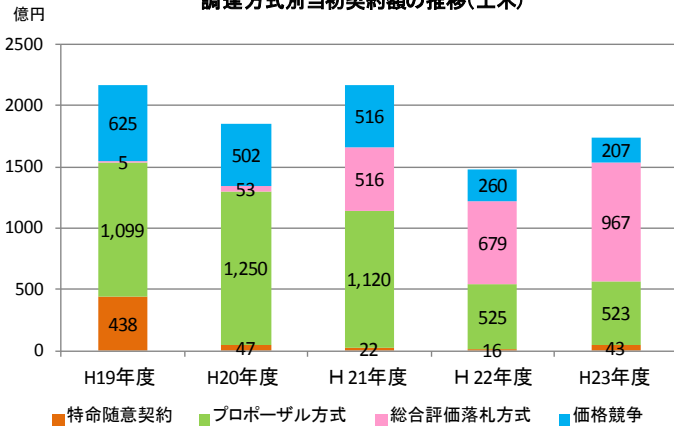


1. 調査・設計等分野の契約状況

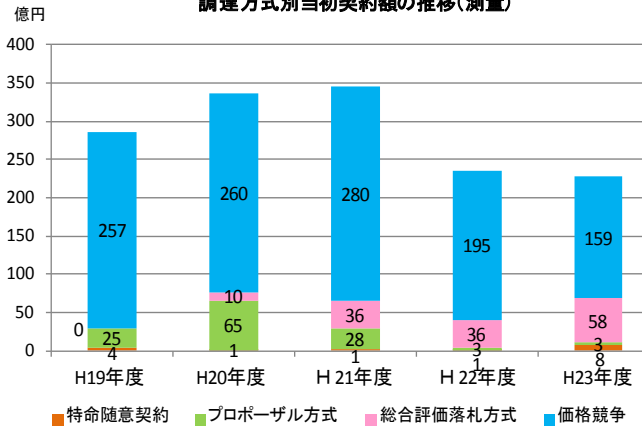
(2) 調達方式別当初契約額の推移(土木／測量／地質)

- ・平成23年度の土木業務の当初契約額の割合は、プロポーザル方式が30.1%、総合評価落札方式が55.6%、価格競争が11.9%となっており、平成22年度に比して総合評価落札方式による発注割合が増加している。
- ・測量業務及び地質業務では、平成23年度においても価格競争による当初契約額の割合が最も多いが、年々、総合評価落札方式による契約割合が増加している(平成23年度は、測量業務で25.6%、地質業務で44.6%が総合評価落札方式)。

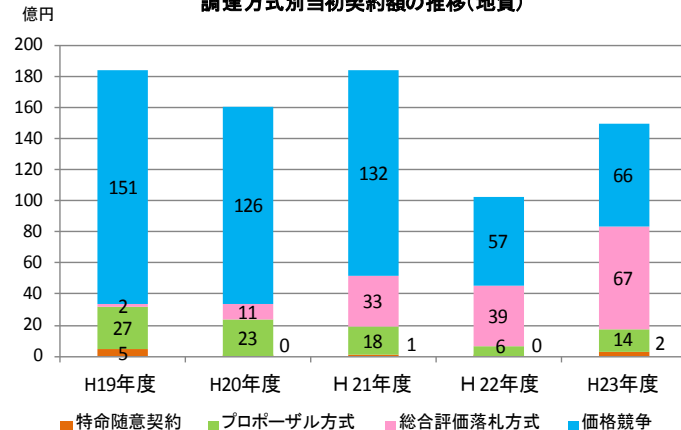
調達方式別当初契約額の推移(土木)



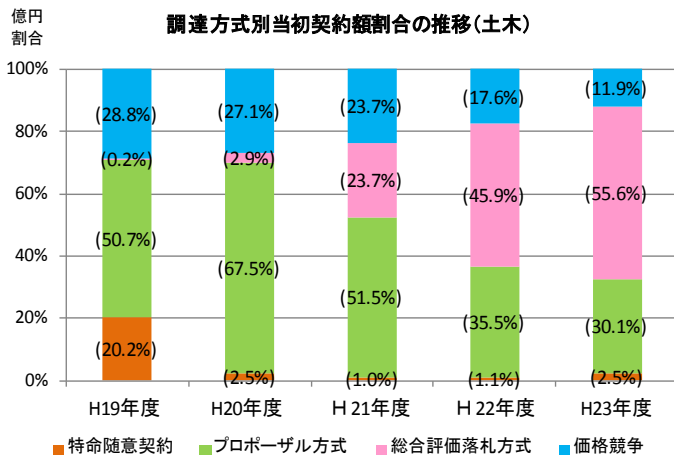
調達方式別当初契約額の推移(測量)



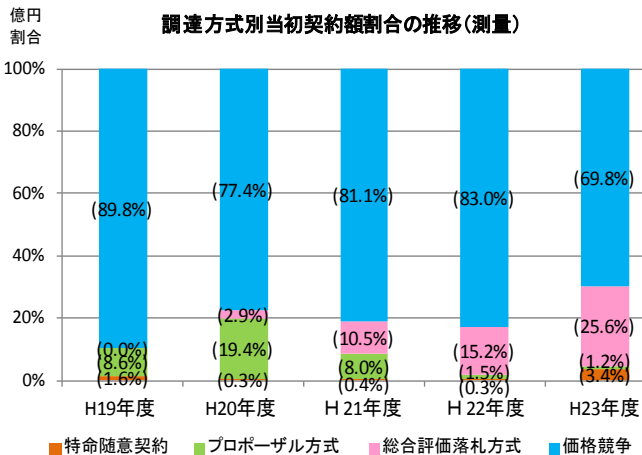
調達方式別当初契約額の推移(地質)



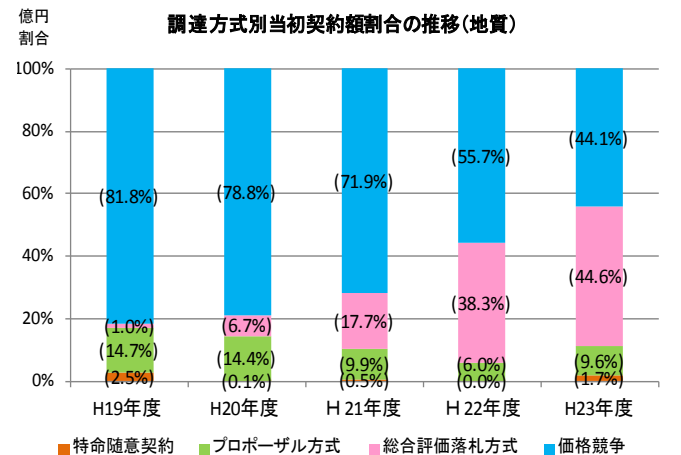
調達方式別当初契約額割合の推移(土木)



調達方式別当初契約額割合の推移(測量)



調達方式別当初契約額割合の推移(地質)

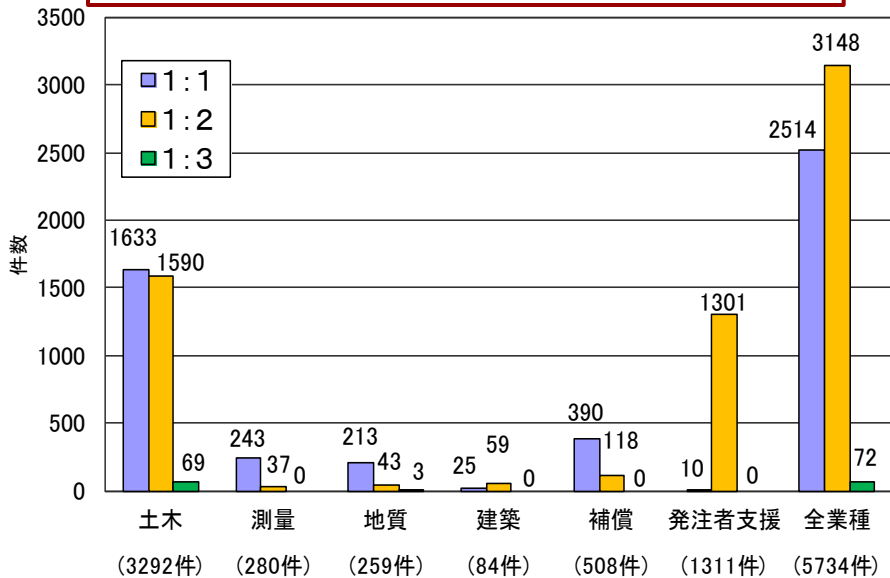


1. 調査・設計等分野の契約状況

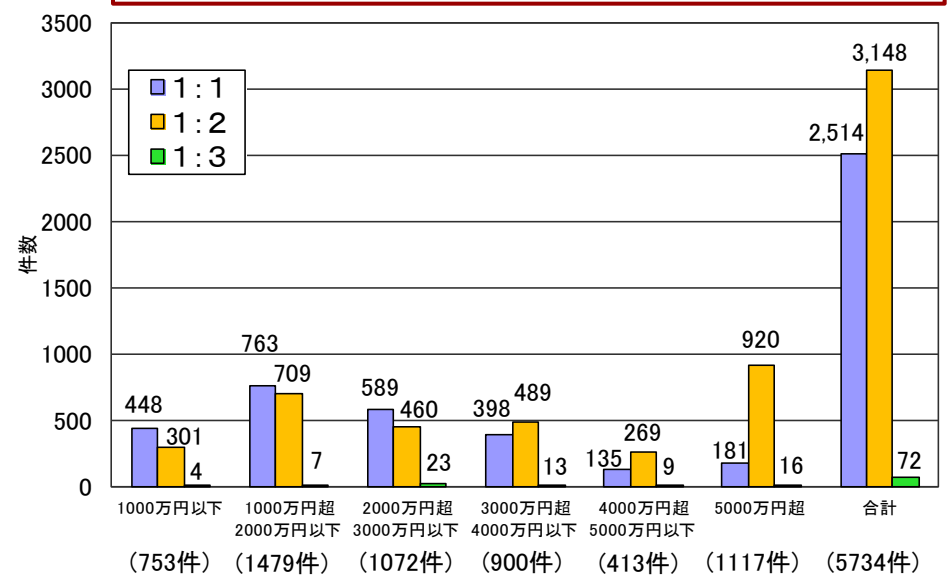
(3) 業種別・予定価格帯別「総合評価落札方式」発注件数(平成23年度)

- 業種別では、土木業務3,292件、測量業務280件、地質調査業務259件、建築業務84件、補償業務508件、発注者支援業務1,311件となっている。
- 予定価格帯の内訳では、1,000万円～2,000万円が最も多く3割弱を占め、4,000万円未満で全体の7割以上を占めている。

H23年度 総合評価落札方式 業種別の件数



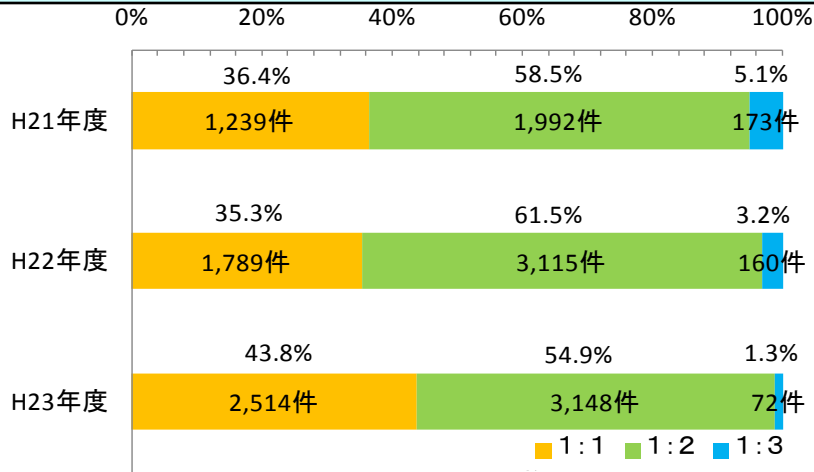
H23年度 総合評価落札方式 予定価格帯別の実施件数



1. 調査・設計等分野の契約状況

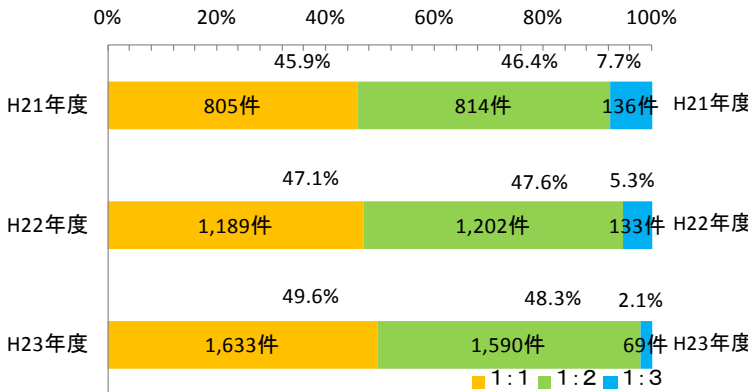
(4) 配点比率別「総合評価落札方式」発注件数の推移(全業種計/土木/測量/地質)

- 配点比率別の実施件数割合は、平成23年度は、1:1は43.8%、1:2は54.9%、1:3は1.3%となっており、平成22年度に比して、簡易型の1:1は増加し、標準型の1:2と1:3は減少した。
- 土木では、1:1と1:2の業務がいずれも増加しているのに比して、1:3の業務は大幅に減少している。

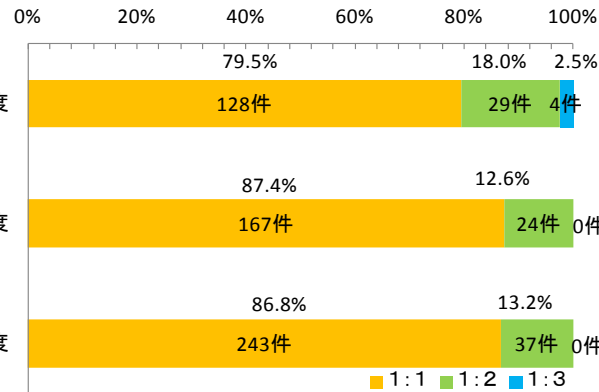


	比率	技術提案
標準型	1:3	実施方針+評価テーマ(2つ以上)
	1:2	実施方針+評価テーマ(1つ)
簡易型	1:1 ※ 業務の難易度に応じて1:2も使用可	実施方針のみ

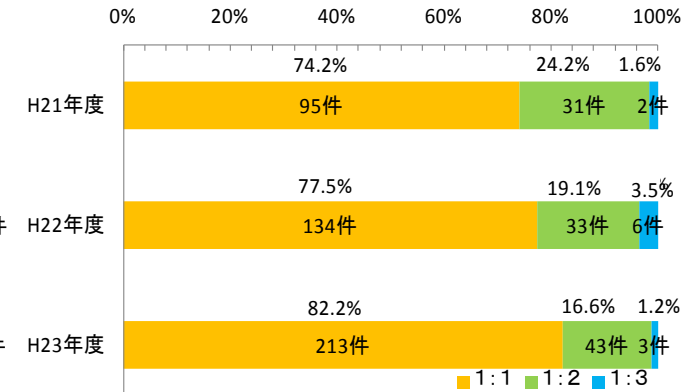
配点比率別発注件数の推移(全業種計)



業種別の配点比率別発注件数の推移(土木)



業種別の配点比率別発注件数の推移(測量)



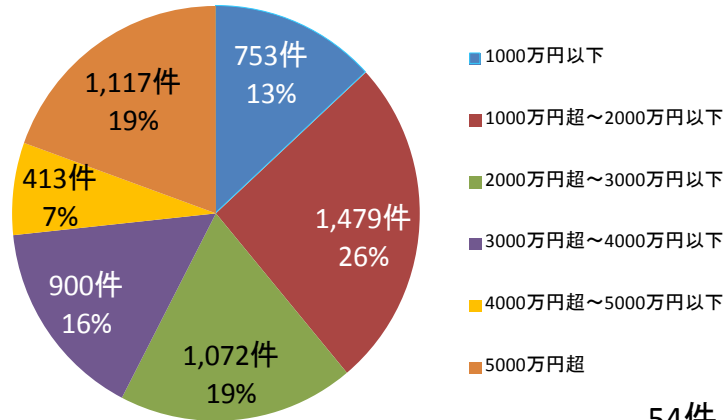
業種別の配点比率別発注件数の推移(地質)

1. 調査・設計等分野の契約状況

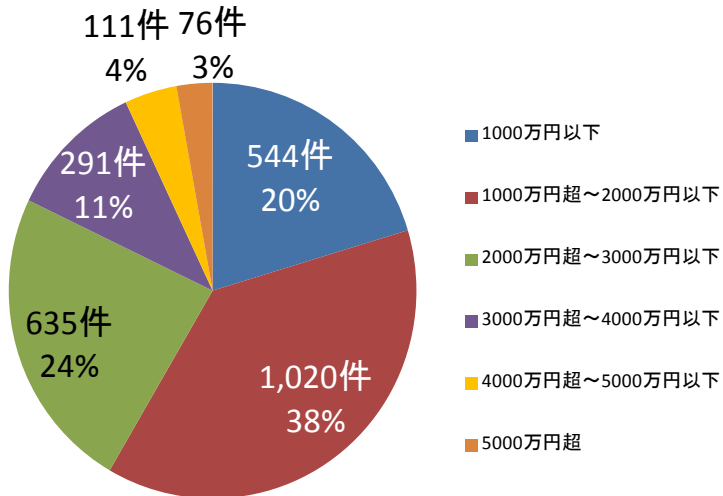
(5) 調達方式別予定価格帯別発注件数(平成23年度)

- ・業務の平均的規模は、総合評価落札方式(3,488万円)、プロポーザル方式(2,101万円)、価格競争(1,192万円)の順となった。
- ・価格競争は、1,000万円以下が59%となり、規模の小さな業務が過半を占めた。
- ・プロポーザル方式は、1,000～3,000万円の範囲に62%が集中した。
- ・総合評価落札方式は、他の方式と比較すると、一部の予定価格帯に偏らず、4,000万円超の業務も26%存在する。

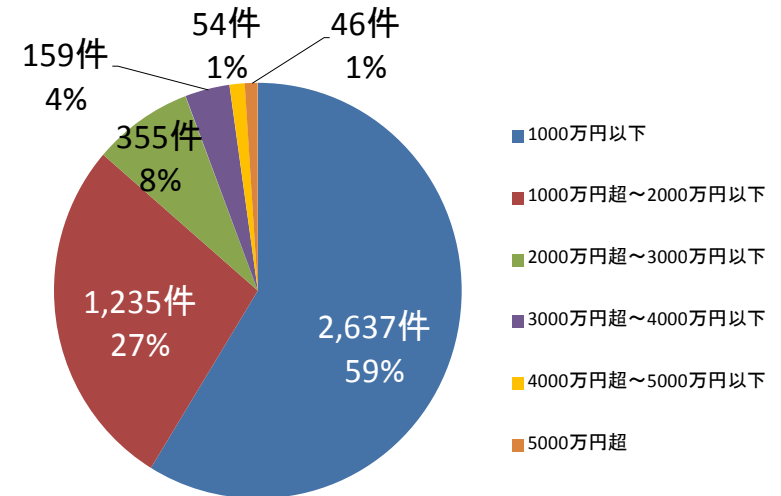
総合評価落札方式 (平均業務規模: 3,488万円)



プロポーザル方式 (平均業務規模: 2,101万円)



価格競争 (平均業務規模: 1,192万円)

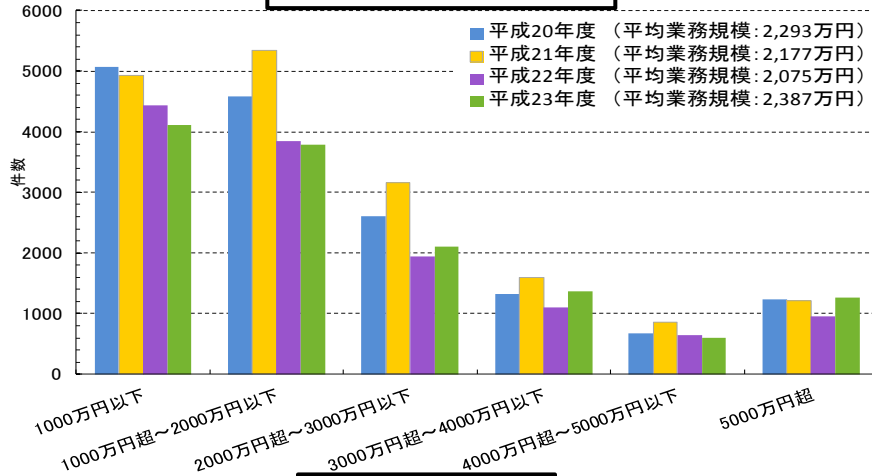


1. 調査・設計等分野の契約状況

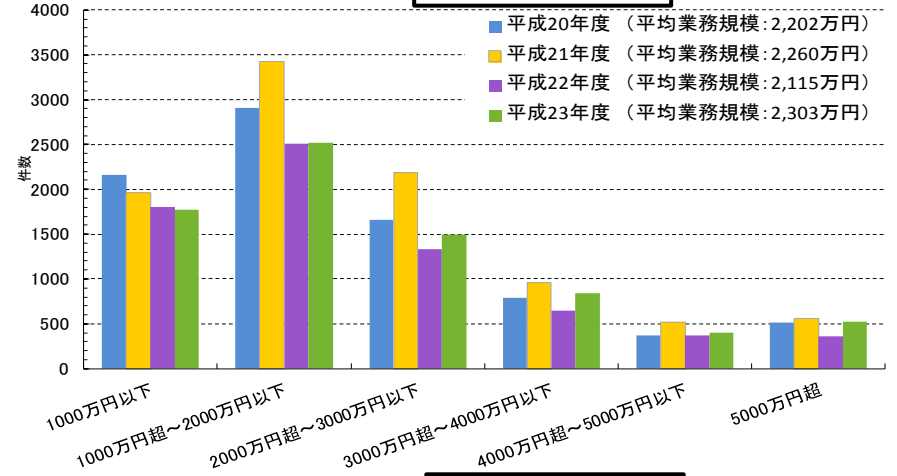
(6) 予定価格帯別発注件数の推移(全業種計/土木/測量/地質)

- 平成23年度の予定価格帯別の発注件数(全業種計)は、平成22年度と比較して、予定価格2,000万円以下で減少しているが、2,000万円超では概ね増加している。なお、地質業務は5,000万円超を除く予定価格帯において発注件数が増加している。
- 土木業務と地質業務の平均業務規模については顕著な経年的変化は見られない。一方で測量業務の平均業務規模は、縮小傾向にある。

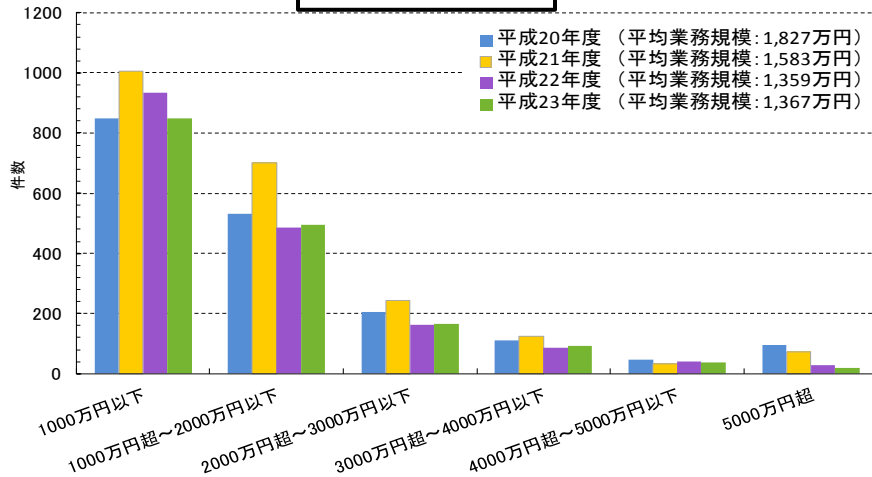
発注件数(全業種計)



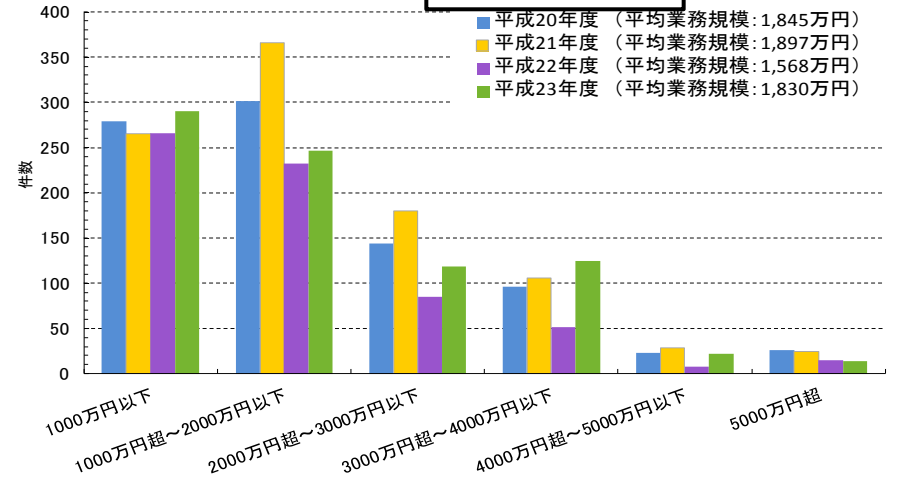
発注件数(土木)



発注件数(測量)



発注件数(地質)

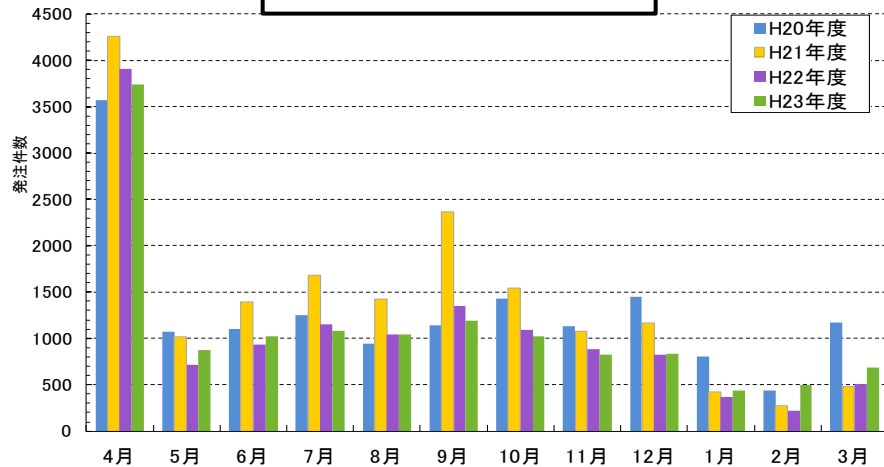


1. 調査・設計等分野の契約状況

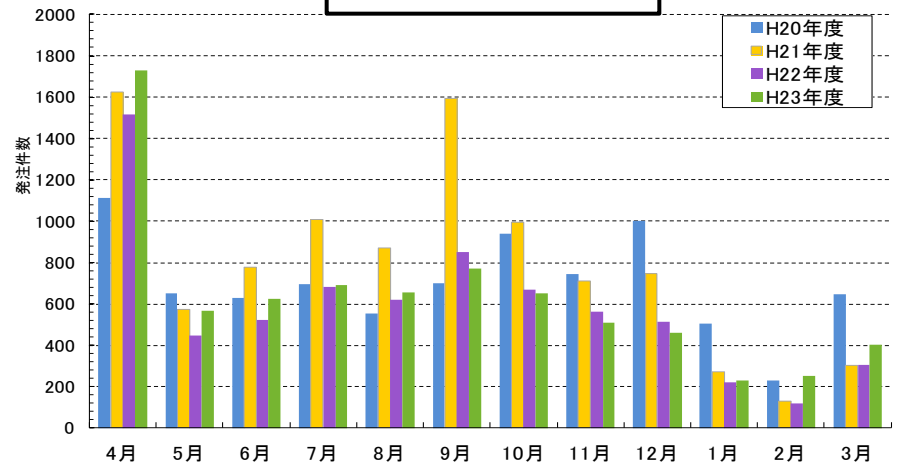
(7) 契約月別発注件数の推移(全業種計/土木/測量/地質)

- ・平成23年度の土木業務では、平成22年度と比較すると、年度の前半で発注件数が増加し、後半で減少している(補正予算等の影響を受けた1~3月を除く)。
- ・平成23年度の地質業務については、補正予算等により、前年度と比較して、年度後半の発注件数が大幅に増加している。

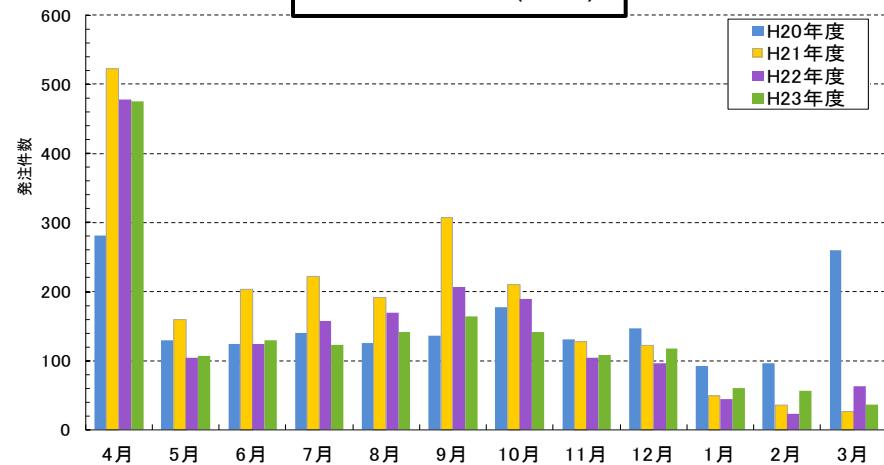
月別発注件数(全業種計)



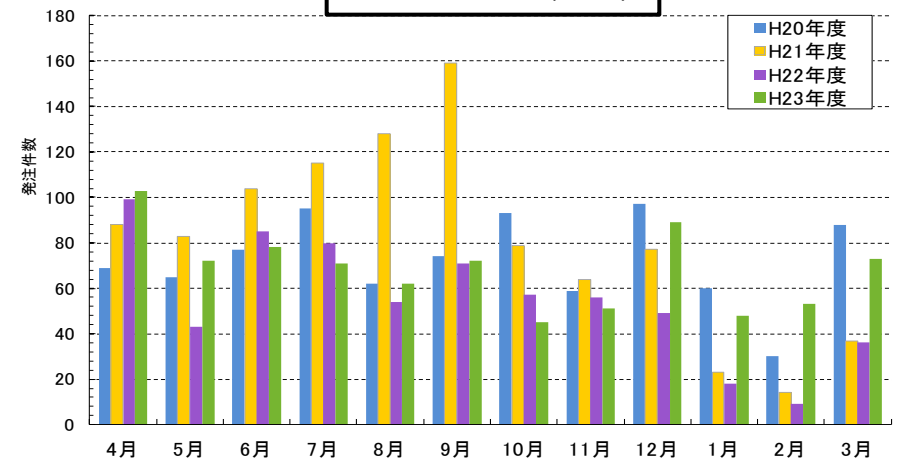
月別発注件数(土木)



月別発注件数(測量)



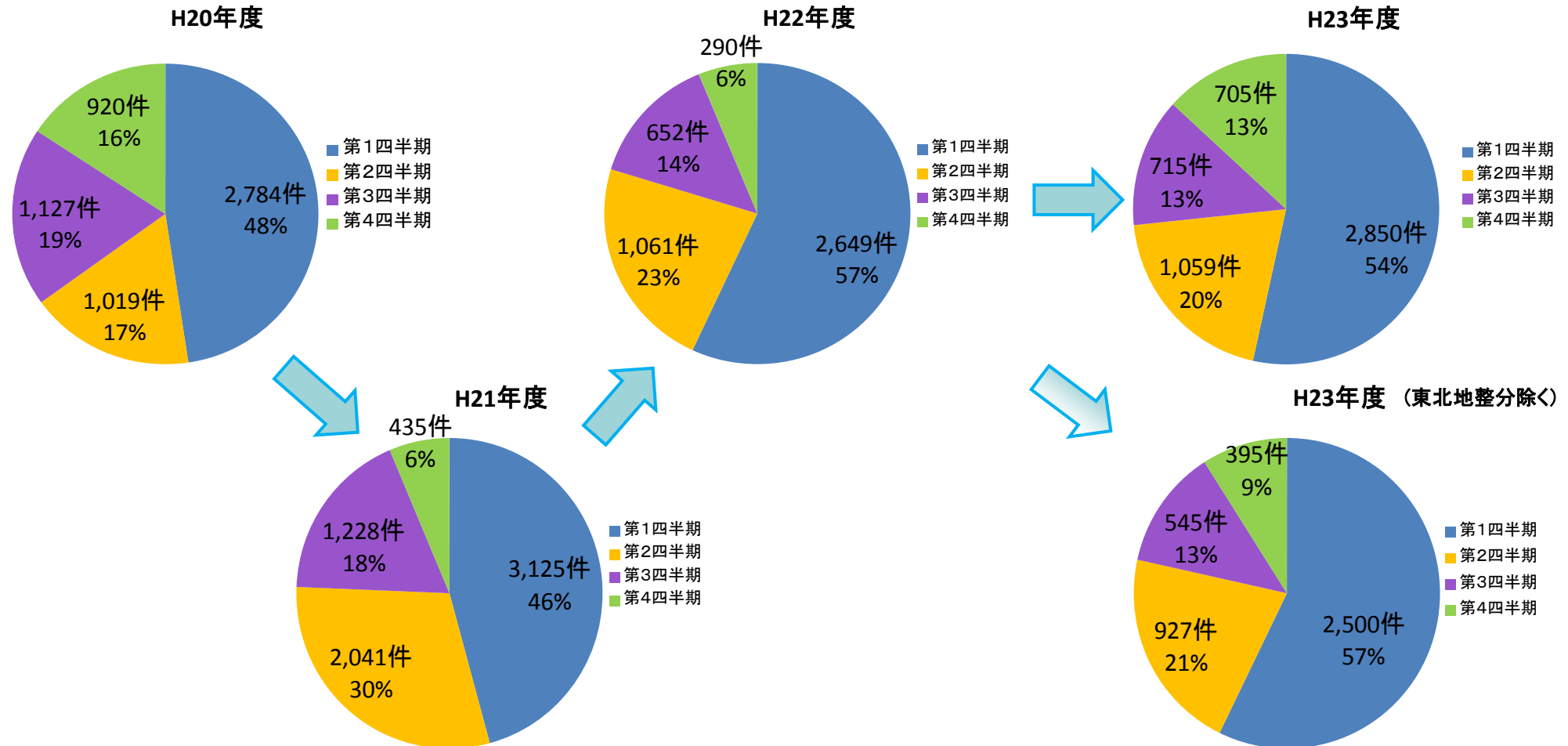
月別発注件数(地質)



1. 調査・設計等分野の契約状況

(8) 早期発注の取り組み状況(予定価格2,000万円超の業務)

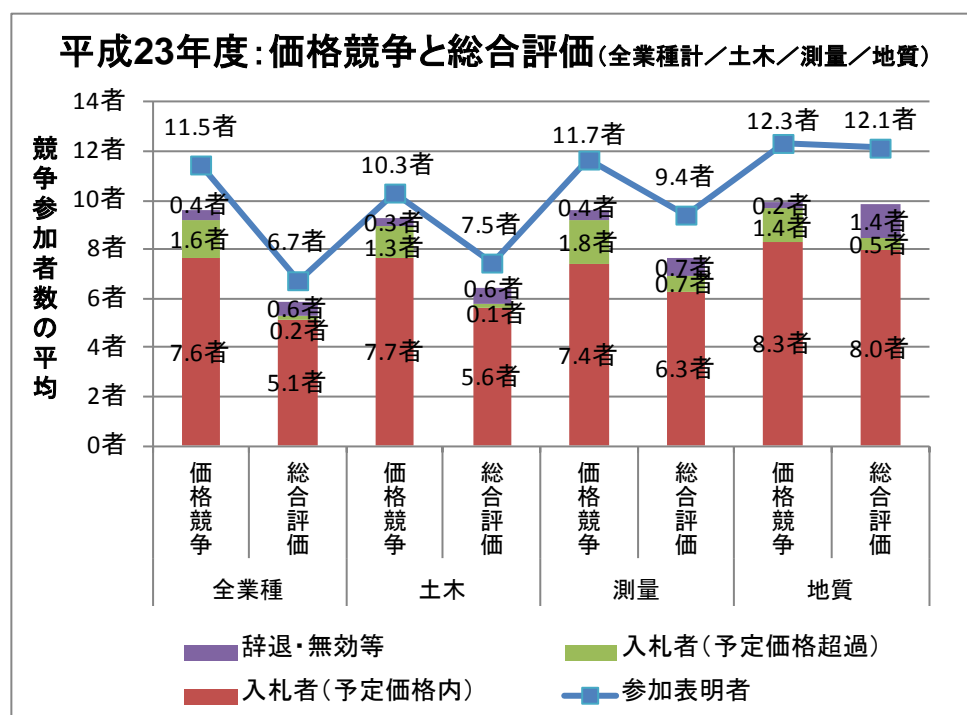
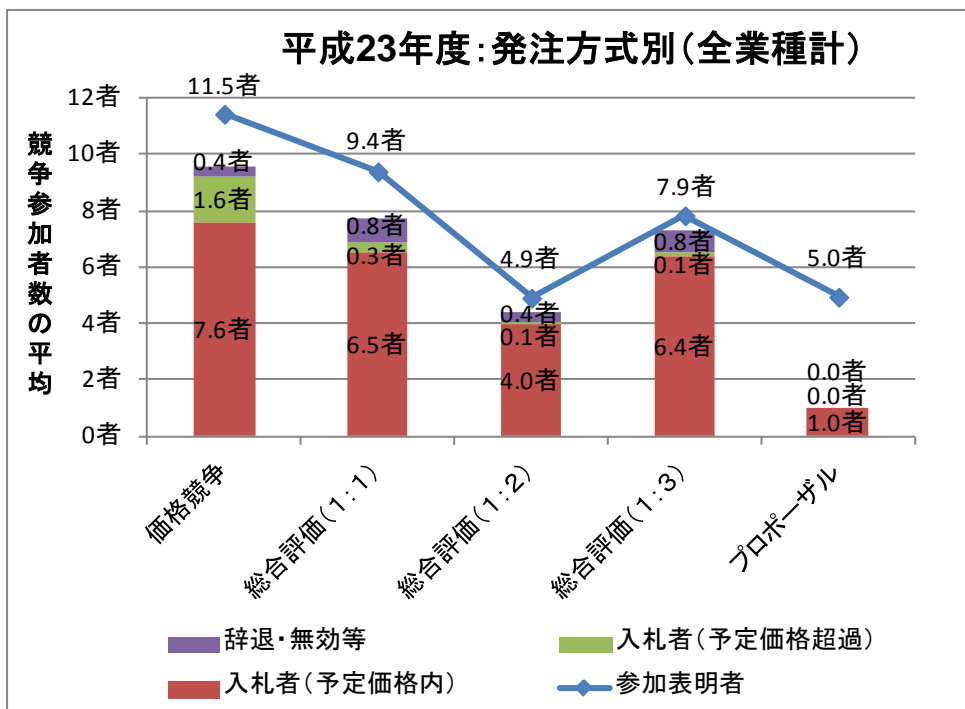
- ・比較的規模の大きい業務(予定価格2,000万円超の業務)については、上半期の契約割合が大幅に増加している(H20年度: 65%→H21年度: 76%→H22年度: 80%→H23年度: 74%)。
- ・平成23年度は、東日本大震災関連業務の発注が多い東北地方整備局を除くと、上半期の契約割合は78%。



2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

(1) 競争参加の状況(平成23年度)

- ・1業務あたりの参加表明者数は、価格競争が11.5者、総合評価落札方式が6.7者（1:1業務=9.4者、1:2業務=4.9者、1:3業務=7.9者）、プロポーザル方式が5.0者となっている。
- ・参加表明者及び入札者を業種別にみると、価格競争では土木・測量・地質とも大きな差異は無いが、総合評価落札方式では、土木<測量<地質となっている。



※参加表明者 : 一般競争では入札者すべて、公募型または簡易公募型業務では参加表明書提出者、及び指名競争(標準プロポーザル方式含む)では指名等が行われた者すべて

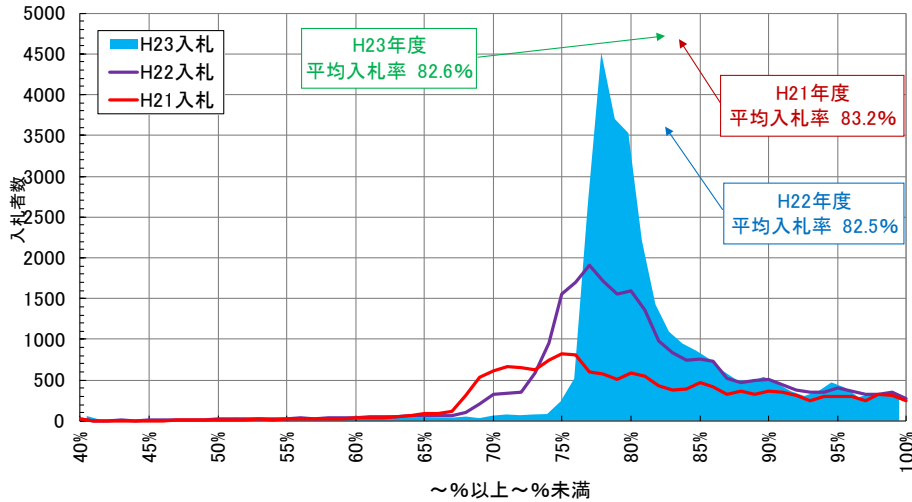
※入札者 : 入札を行ったすべての者(入札が無効となった者を除く)

※辞退・無効等 : 入札が無効となった者、及び入札を辞退した者等

(2) 入札率分布の推移

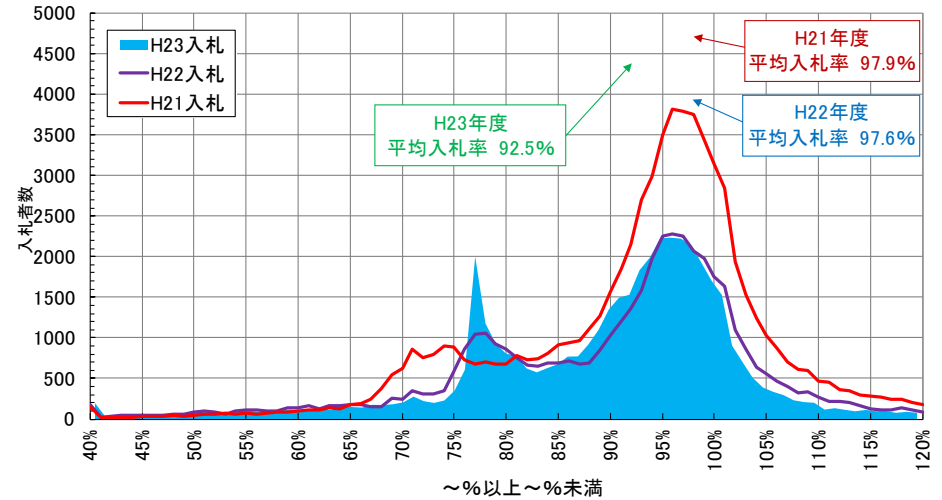
- ・総合評価落札方式では、入札率が調査基準価格付近(約75~80%)に集中し、その傾向が経年的に著しくなっている。
- ・価格競争では、入札率は調査基準価格付近と95~100%の間に2つのピークがあり、件数は后者のピークが多い。また、調査基準価格付近のピークの形状は年々先鋭化している一方で、95~100%のピークの形状は年々緩やかになっている。
- ・平均入札率をみると、総合評価落札方式では顕著な変化は見られないが、価格競争では、平成23年度において平均入札率が大幅に低下している。

総合評価 入札率分布: 全体



総合評価

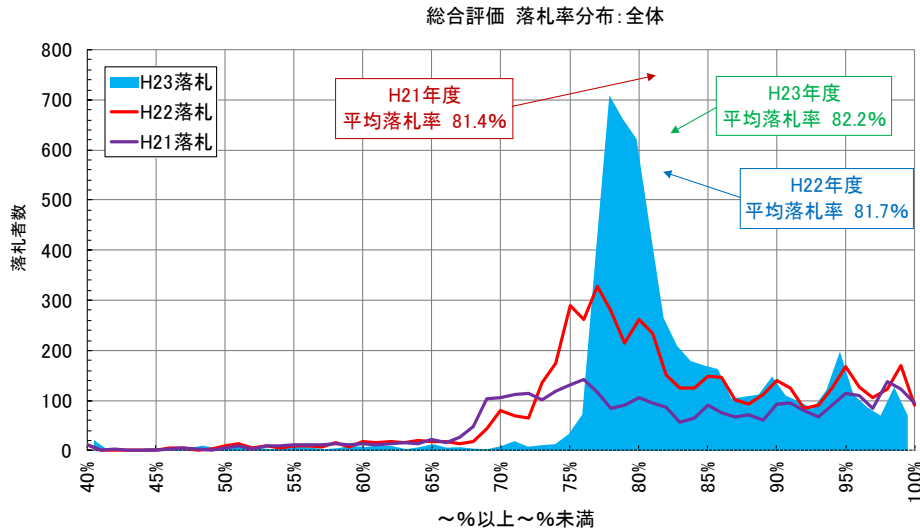
価格競争 入札率分布: 全体



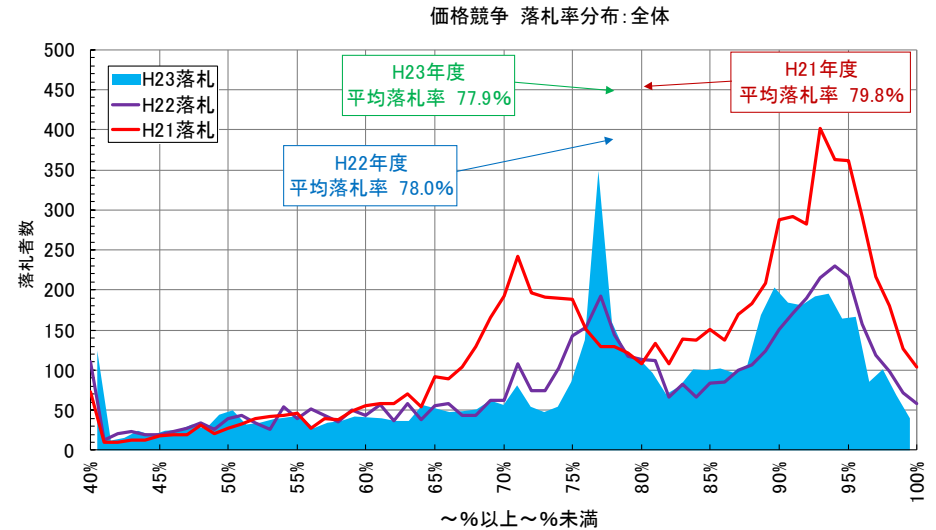
価格競争

(3) 落札率分布の推移

- ・総合評価落札方式では、落札率が調査基準価格付近へ集中し、その傾向が年々著しくなっている。また、調査基準価格未満の落札はほとんど存在しない。
- ・価格競争では、落札率は、調査基準価格付近と90～100%の間の2つのピークがあり、前者のピークは高く、形状が鋭くなっているが、後者のピークは年々低くなり、形状は緩やかとなっている。調査基準価格未満の落札もかなり多く分布している。
- ・平均落札率をみると、総合評価落札方式では顕著な経年変化が見られないが、価格競争では、やや低下傾向が見られる。



総合評価



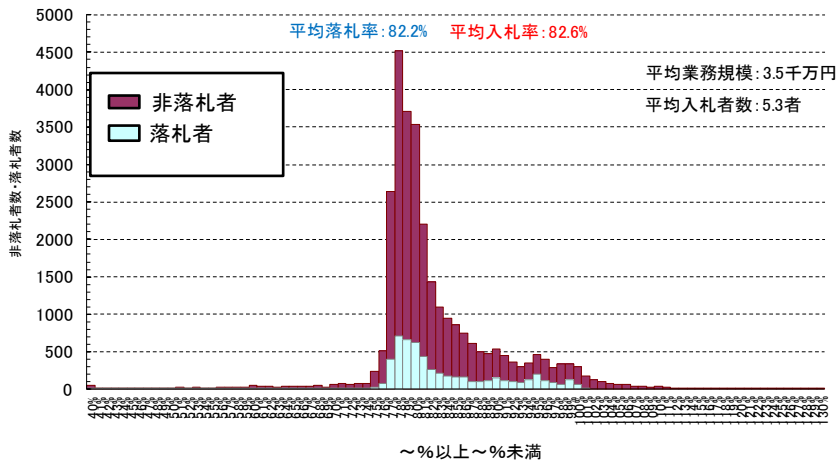
価格競争

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

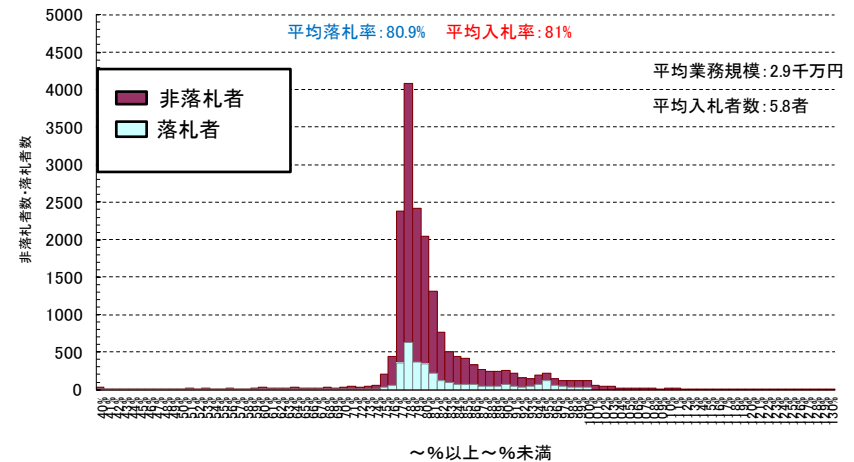
(4)業種別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度)

- 土木業務及び地質業務では、入札率・落札率ともに調査基準価格付近にピークがあり、調査基準価格未満の領域において非落札・落札の分布はほとんどない。また、土木業務のほうが調査基準価格付近での集中度が高い。
- 測量業務では、入札率・落札率ともに調査基準価格付近のほかに、90~100%の間に低い第二のピークがみられる。

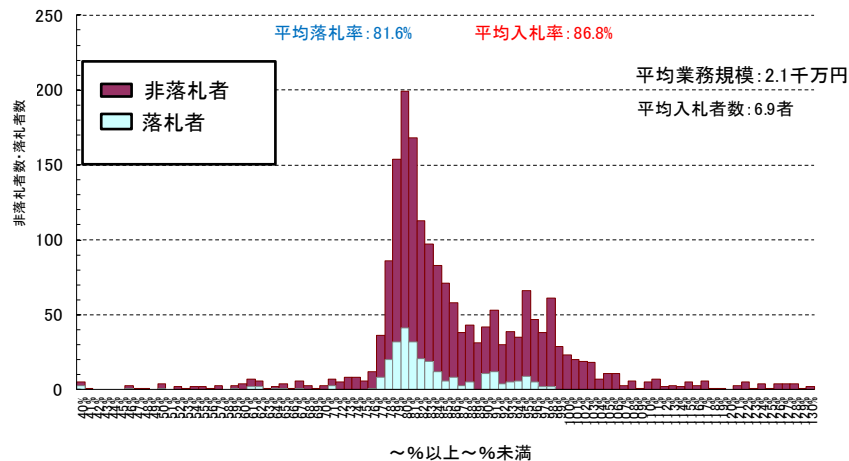
H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(全業種)



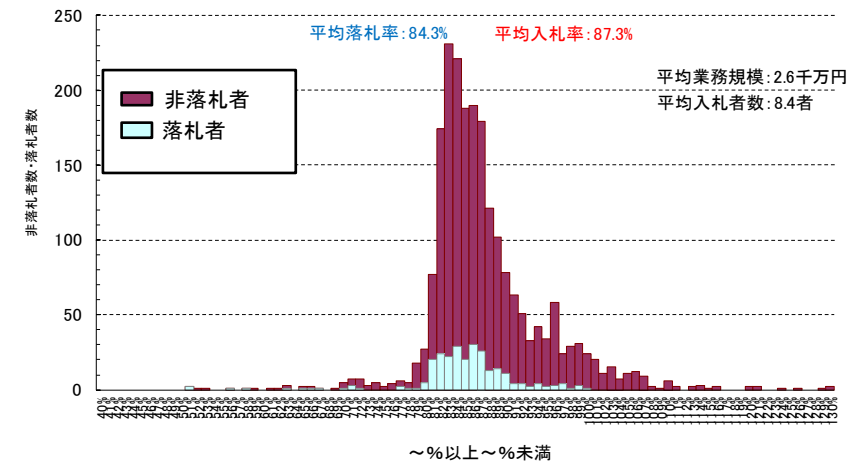
H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(土木)



H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(測量)



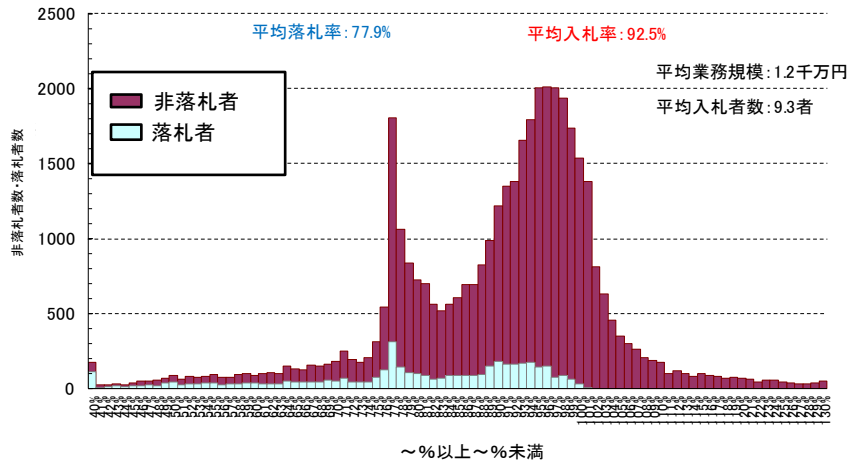
H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(地質)



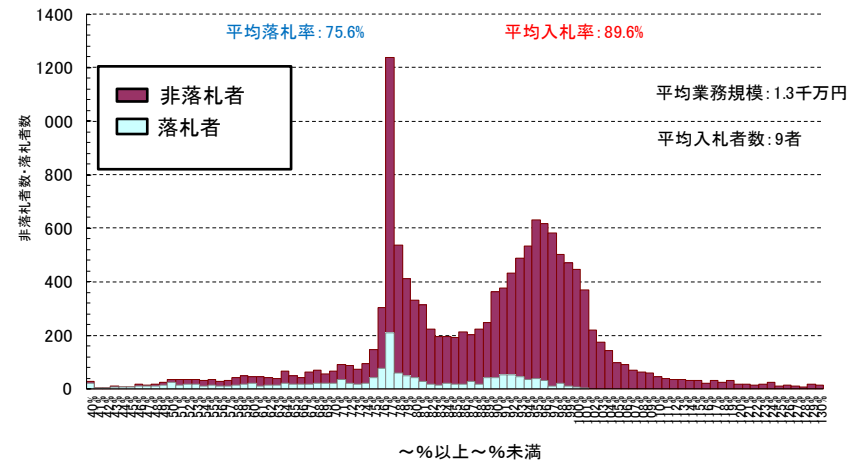
(4)業種別入札率・落札率の分布(価格競争:平成23年度)

- ・全業種、土木、測量及び地質のすべてで、調査基準価格未達の領域において、入札・落札の分布がある。
- ・全業種、土木、測量及び地質のすべてで、入札率・落札率は調査基準価格付近と90～100%の間の2つのピークを持つ。
- ・平均落札率と平均入札率の差は総合評価に比べて大きくなっている。

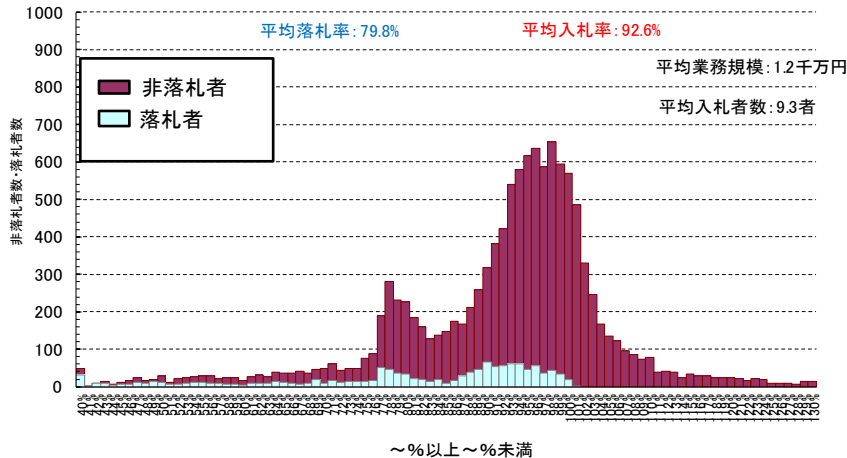
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(全業種)



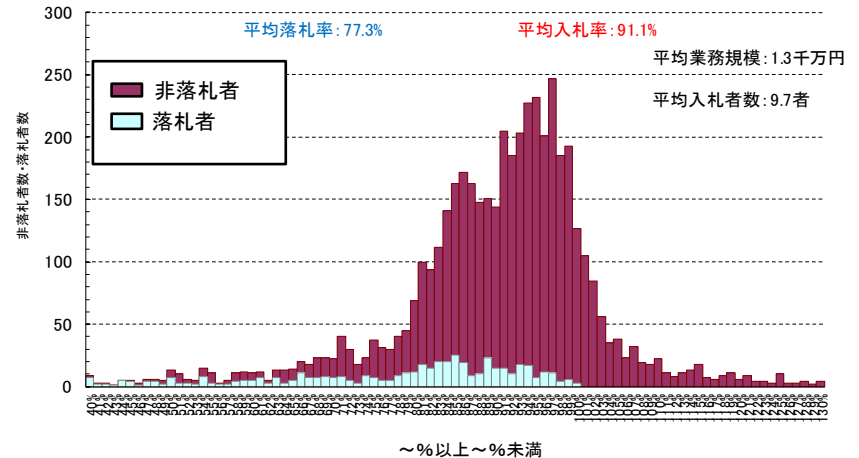
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(土木)



H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(測量)



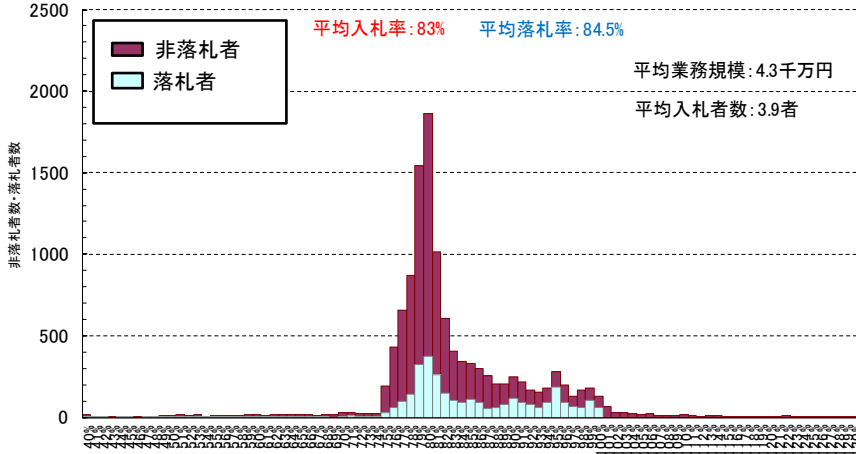
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(地質)



(5) 四半期別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度)

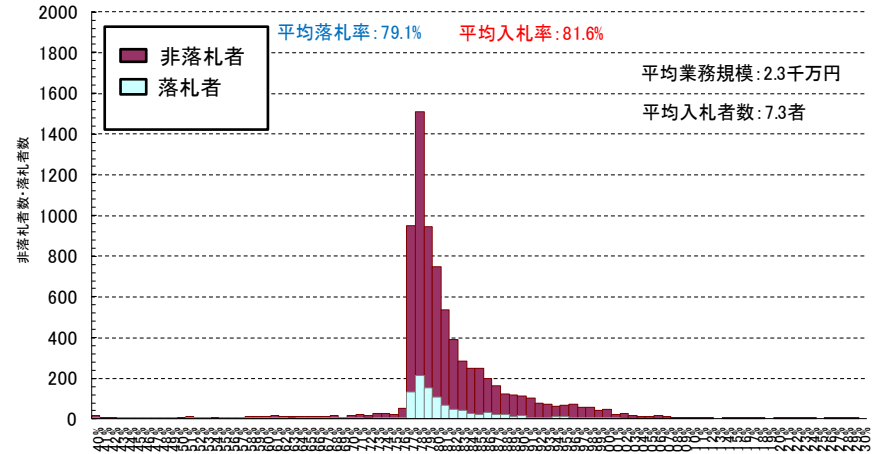
- ・第1四半期は、入札率・落札率ともに調査基準価格付近と90～100%の間の2つのピークがあるが、件数は調査基準価格付近に集中している。
- ・第2四半期から第4四半期は、入札率・落札率ともに、調査基準価格付近のみにピークがある。

H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(第1四半期)



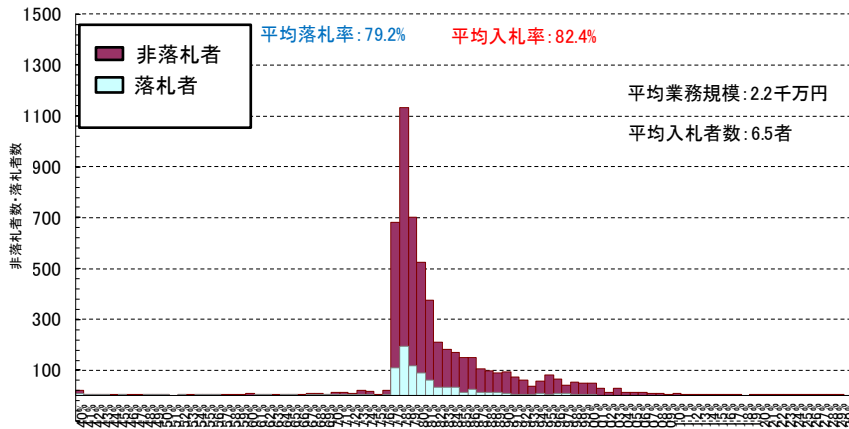
～%以上～%未満

H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(第2四半期)



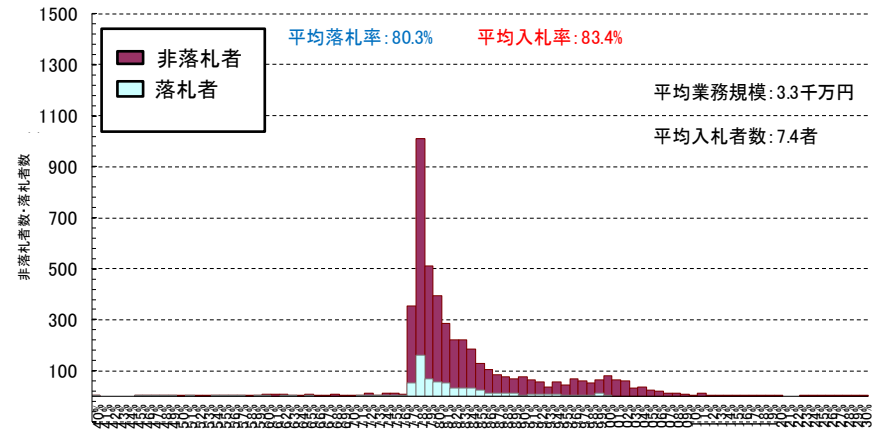
～%以上～%未満

H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(第3四半期)



～%以上～%未満

H23年度:総合評価落札方式 入札率・落札率分布(第4四半期)



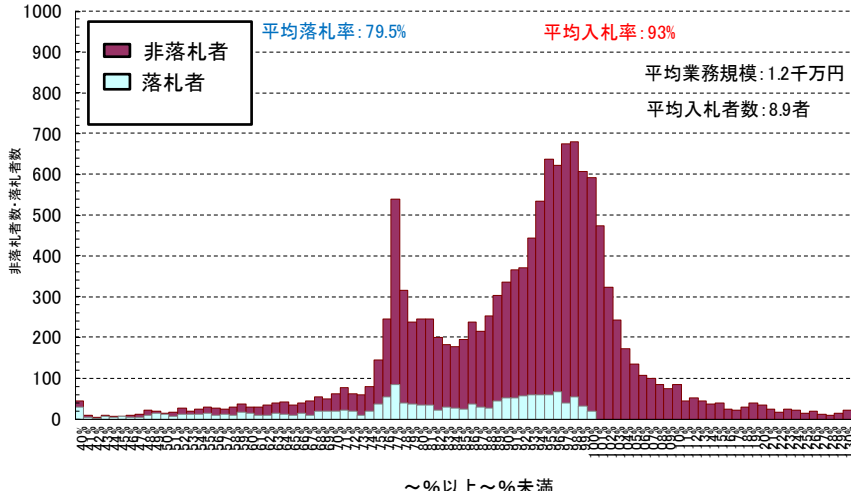
～%以上～%未満

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

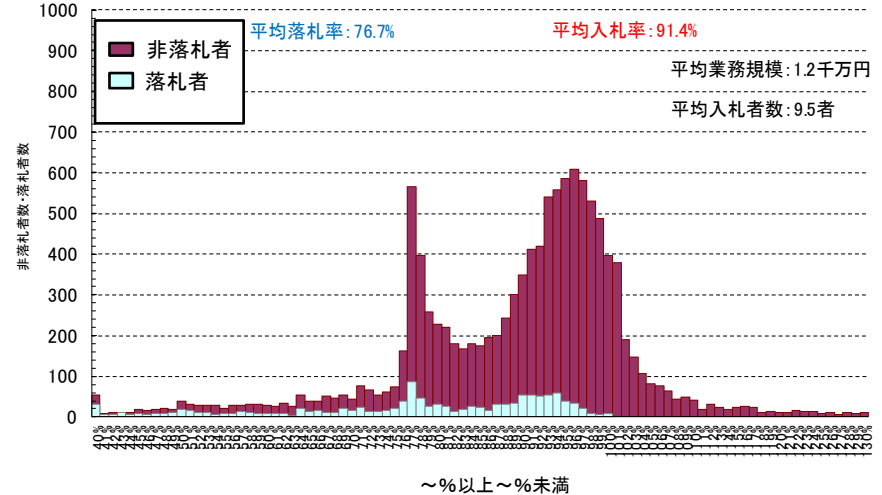
(5) 四半期別入札率・落札率の分布(価格競争:平成23年度)

・各期ともほぼ同じ傾向を持ち、入札率・落札率ともに調査基準価格付近と90～100%の間の2つのピークがあり、95%付近のピークが高く、多数の非落札者、落札者が集中している。

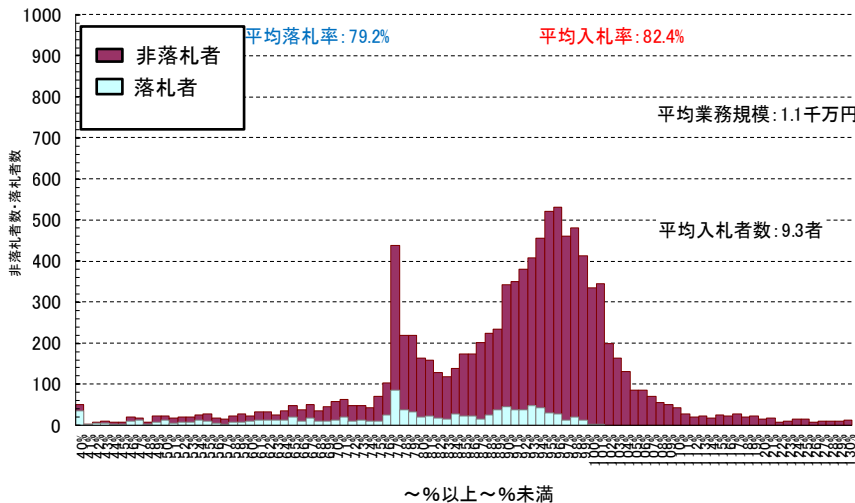
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(第1四半期)



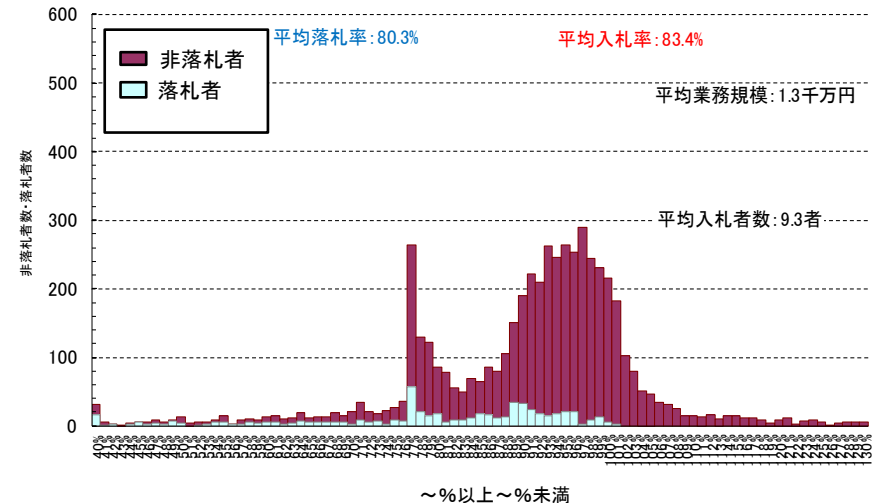
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(第2四半期)



H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(第3四半期)



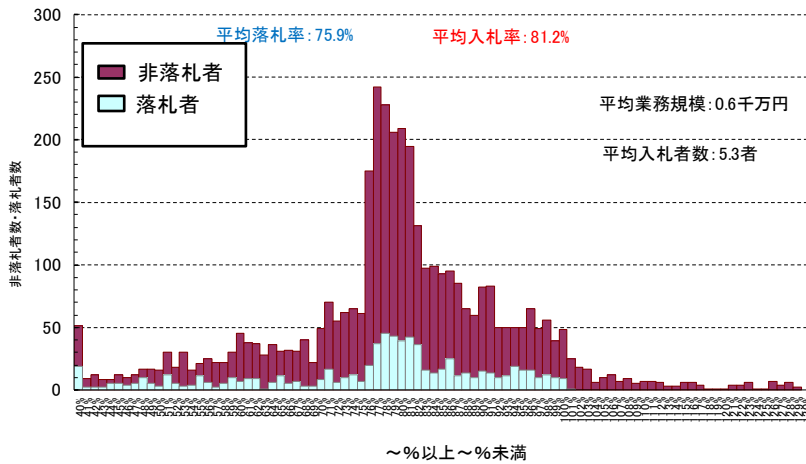
H23年度:価格競争 入札率・落札率分布(第4四半期)



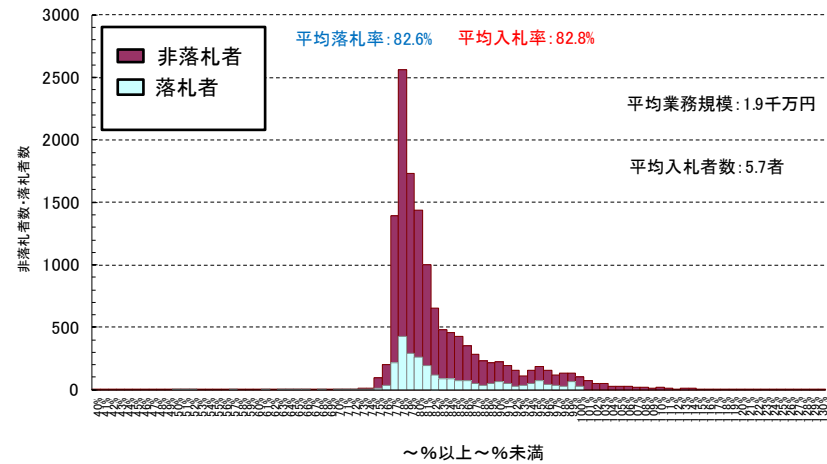
(6) 予定価格帯別入札率・落札率の分布(総合評価:平成23年度)

- ・ 予定価格1,000万円超は調査基準価格付近に集中し、調査基準価格以下の範囲にはほとんど分布はない。予定価格1,000万円以下では、調査基準価格付近にピークはあるものの、調査基準価格より低い領域には分布が存在する。
- ・ 予定価格5,000万円超では、1,000～3,000万円、3,000～5,000万円の分布に対して、調査基準価格より高い領域での入札率・落札率の件数が多くなっている。

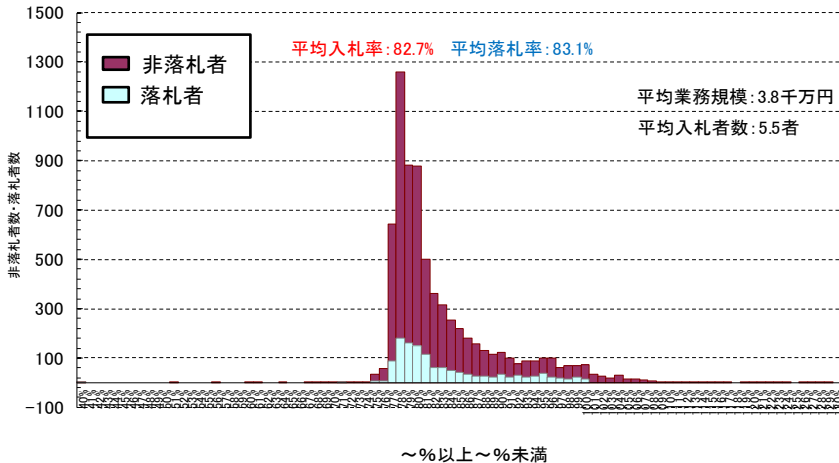
H23年度: 総合評価落札方式 入札率・落札率分布(予定価格1,000万円以下)



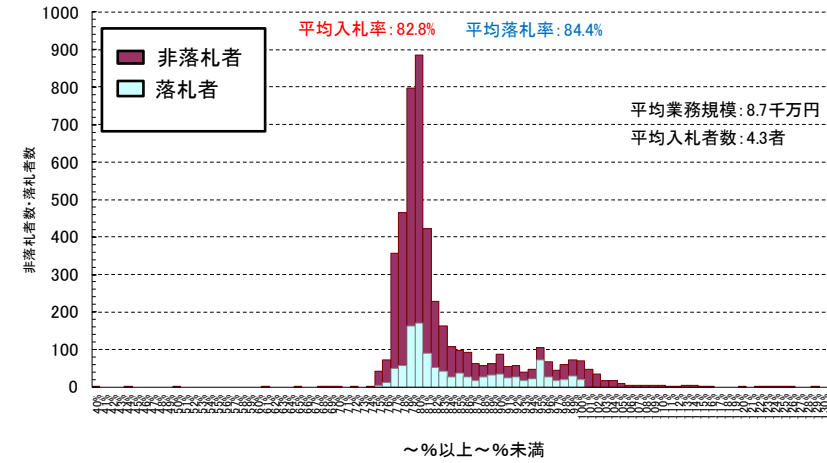
H23年度: 総合評価落札方式 入札率・落札率分布(予定価格1,000万円超3,000万円以下)



H23年度: 総合評価落札方式 入札率・落札率分布(予定価格3,000万円超5,000万円以下)

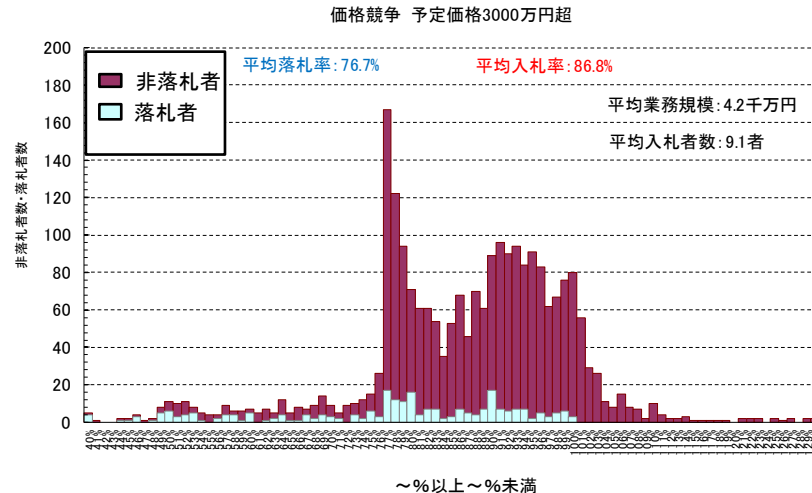
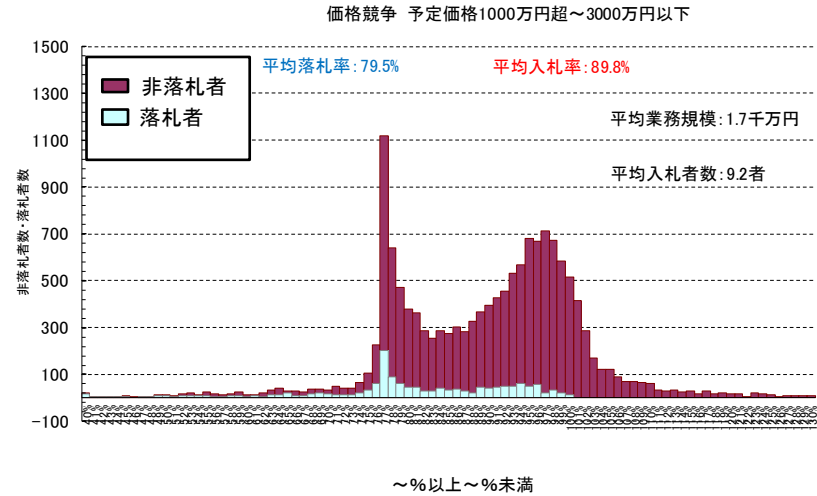
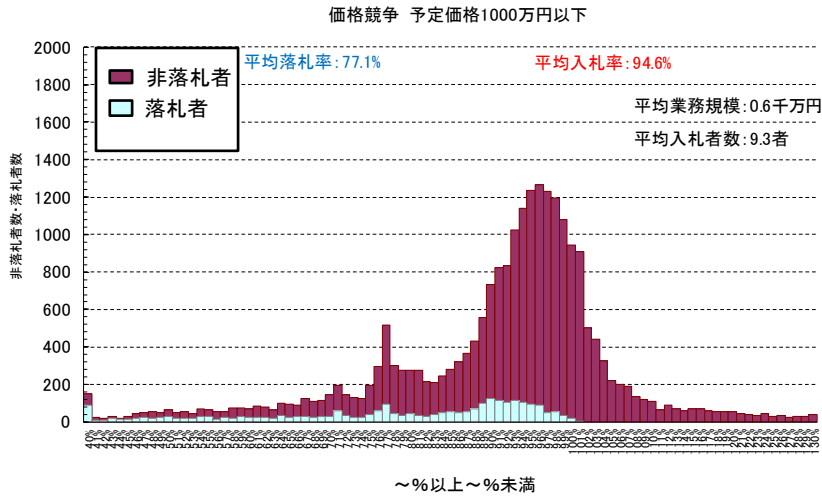


H23年度: 総合評価落札方式 入札率・落札率分布(予定価格5,000万円超)



(6) 予定価格帯別入札率・落札率の分布(価格競争:平成23年度)

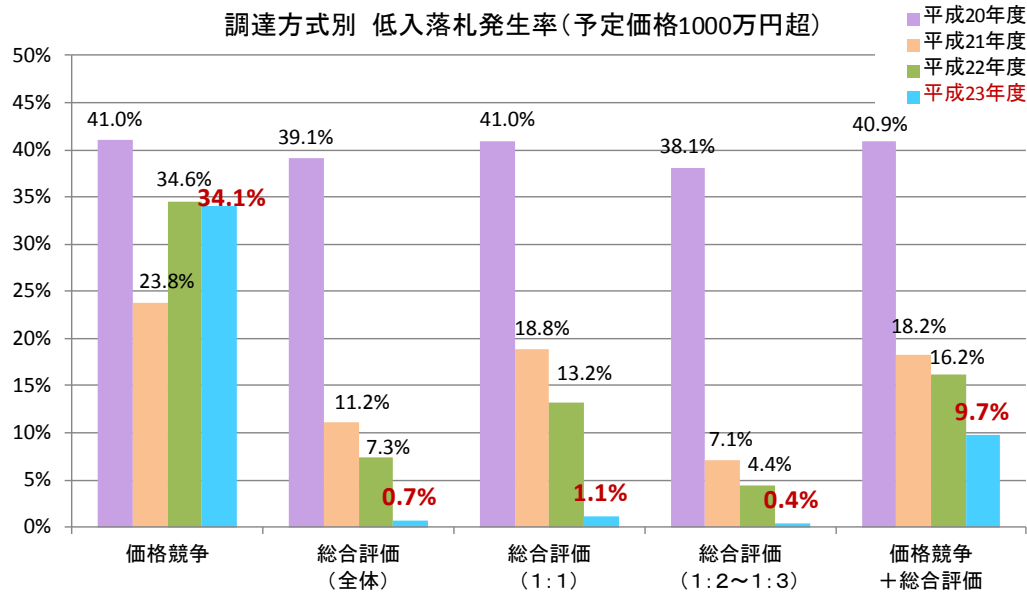
- ・予定価格1,000万円以下では、入札率・落札率の分布は90～100%の間と調査基準価格相当額付近の2つピークがあり、前者に多くの非落札者、落札者が分布している。また、調査基準価格相当額より低い範囲にも入札率・落札率の分布がある。
- ・予定価格1,000万円超について、入札率には調査基準価格付近と予定価格付近にピークが認められる。



2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

(7) 低入落札発生状況(総合評価・価格競争別/業務規模別 経年変化)[予定価格1,000万円超]

- ・平成23年度は前年度に比して総合評価落札方式の低入落札発生率が7.3%から0.7%に大幅に減少しており、履行確実性評価の対象を1,000万円超に拡大した効果がうかがえる。
- ・価格競争の低入落札発生率は34.1%と依然として高いが、価格競争＋総合評価では、16.2%から9.7%に減少している。

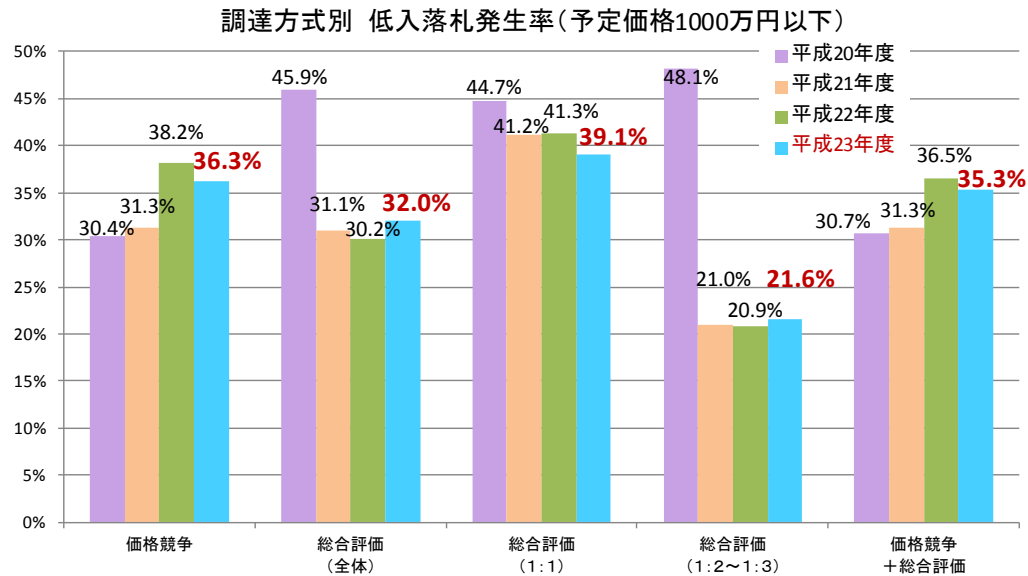


		価格競争	総合評価(全体)	総合評価(1:1)	総合評価(1:2~1:3)	価格競争＋総合評価
平成23年度	対象業務件数	1,837	4,977	2,066	2,911	6,814
	低入札落札件数	626	36	23	13	662
平成22年度	対象業務件数	2,046	4,261	1,425	2,836	6,307
	低入札落札件数	707	312	188	124	1,019
平成21年度	対象業務件数	3,721	2,930	1,019	1,911	6,651
	低入札落札件数	884	327	192	135	1,211
平成20年度	対象業務件数	3,995	307	105	202	4,302
	低入札落札件数	1,638	120	43	77	1,758

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

(7) 低入札発生状況(総合評価・価格競争別/業務規模別 経年変化)[予定価格1,000万円以下]

- ・予定価格1000万円以下の総合評価及び価格競争の低入札発生率は、それぞれ32.0%、36.3%であり、前年度とほぼ同じ水準となっている。
- ・総合評価において、配点比率別では、平成23年度は、1:2~1:3 では21.6%に対し、1:1では39.1%と2倍近い数値となっている。



		価格競争	総合評価(全体)	総合評価(1:1)	総合評価(1:2~1:3)	価格競争+総合評価
平成23年度	対象業務件数	2,637	753	448	305	3,390
	低入札落札件数	957	241	175	66	1,198
平成22年度	対象業務件数	2,994	799	363	436	3,793
	低入札落札件数	1,143	241	150	91	1,384
平成21年度	対象業務件数	3,479	409	204	205	3,888
	低入札落札件数	1,088	127	84	43	1,215
平成20年度	対象業務件数	3,647	74	47	27	3,721
	低入札落札件数	1,107	34	21	13	1,141

※落札率75%を下回る業務を低入札とみなした。

2. 入札の状況(総合評価と価格競争の比較)

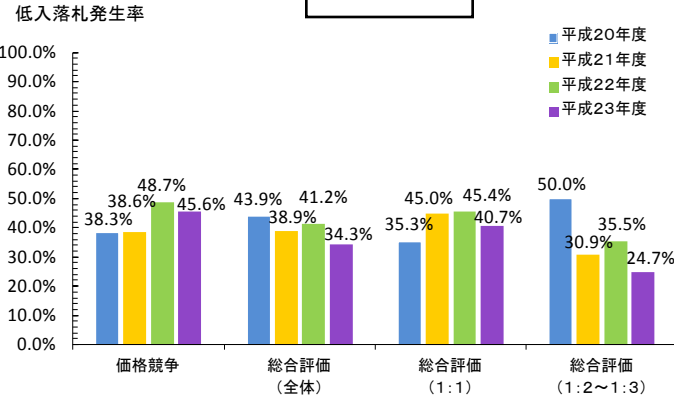
(7) 低入落札発生状況(土木/測量/地質)(総合評価・価格競争別/業務規模別 経年変化)

・主要3業種においても、平成23年度は予定価格1,000万円超の総合評価落札方式では低入落札発生率が0%もしくはこれに近い値となっているが、価格競争及び1,000万円以下の総合評価落札方式では低入落札発生率が高くなっている。

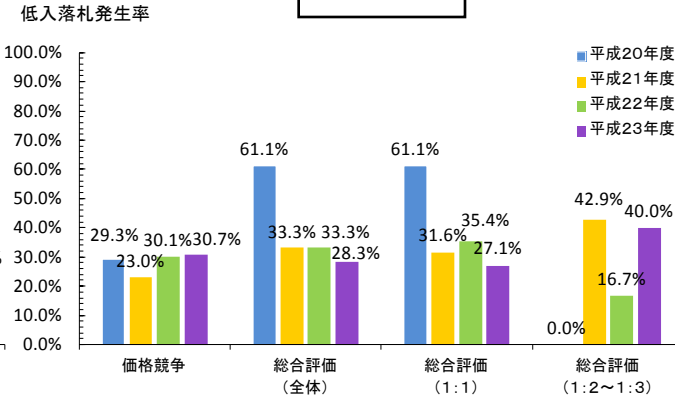
土木

測量

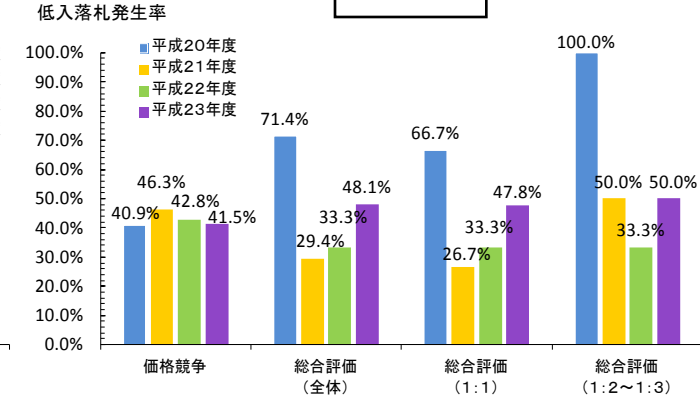
地質



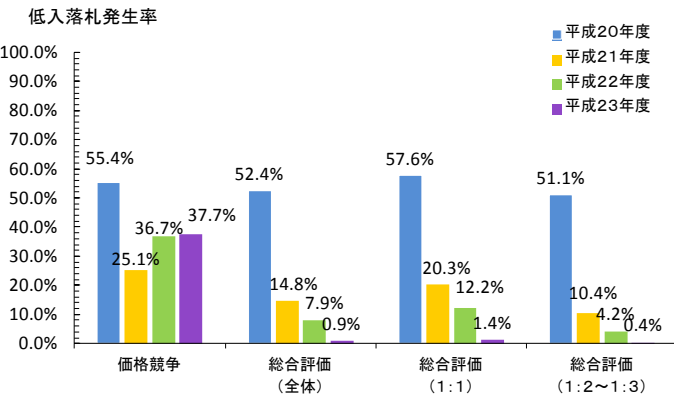
低入落札発生率(土木、1,000万円以下)



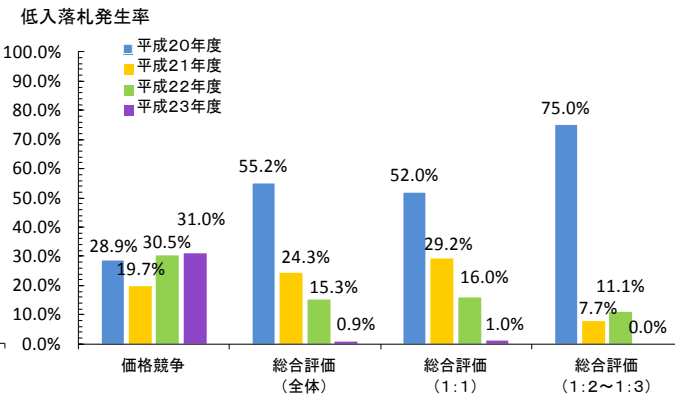
低入落札発生率(測量、1,000万円以下)



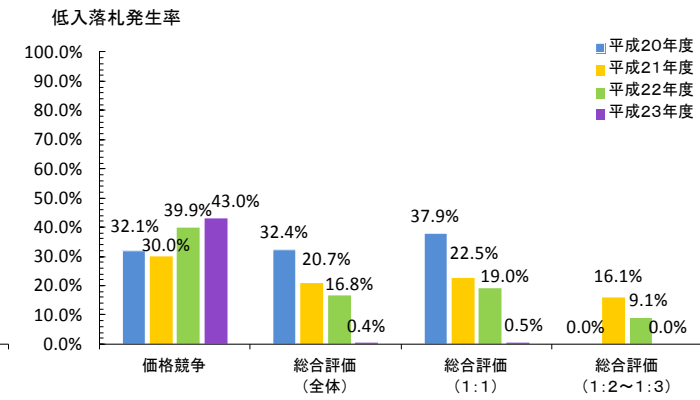
低入落札発生率(地質、1,000万円以下)



低入落札発生率(土木、1,000円超)



低入落札発生率(測量、1,000円超)



低入落札発生率(地質、1,000円超)

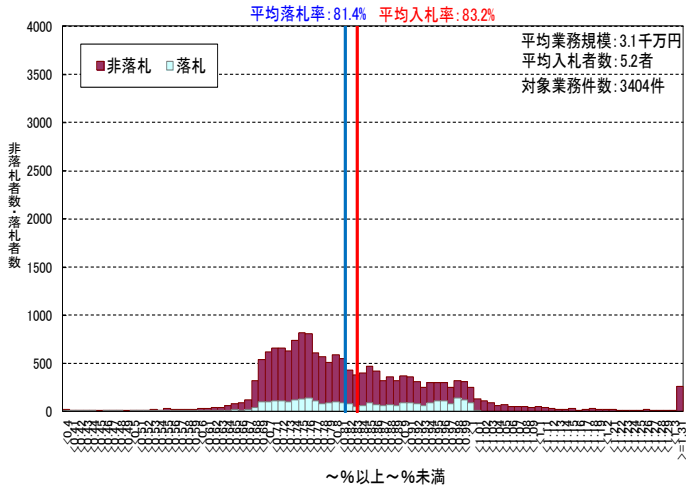
※予定価格1000万円以下の業務は落札率75%未満を低入札業務とした

3. 総合評価落札方式の運用実態

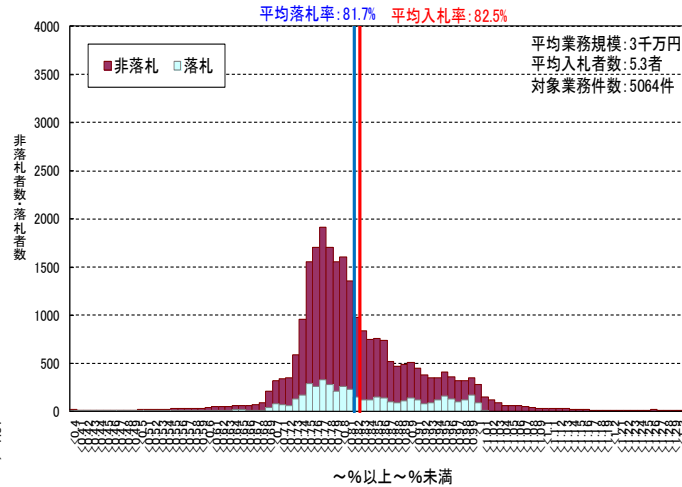
(1) 入札率の分布（経年変化）

- ・入札率、落札率の分布は調査基準価格付近に集中し、年々、集中度が高くなっている。
- ・平均落札率には大きな変化はないが、平均入札率との差は年々縮小している。

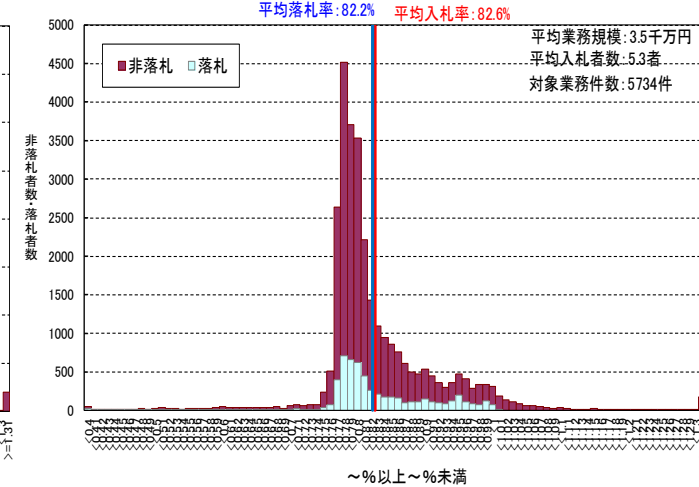
平成21年度
総合評価落札方式 入札率・落札率の分布
(全業種計)



平成22年度
総合評価落札方式 入札率・落札率の分布
(全業種計)



平成23年度
総合評価落札方式 入札率・落札率の分布
(全業種計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札者数(非落札者数)に無効・辞退等を含まない。

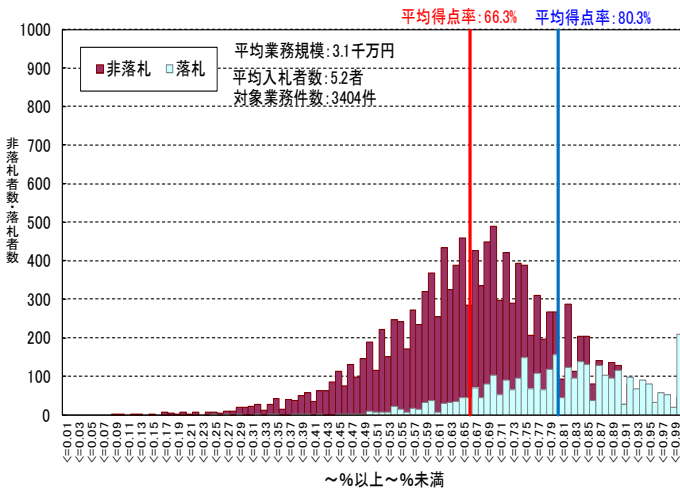
3. 総合評価落札方式の運用実態

(2) 入札者の技術点得点率の分布（経年変化）

・落札者・入札者(非落札者)の技術点得点率の分布及び平均得点率には、顕著な経年変化は見受けられない。

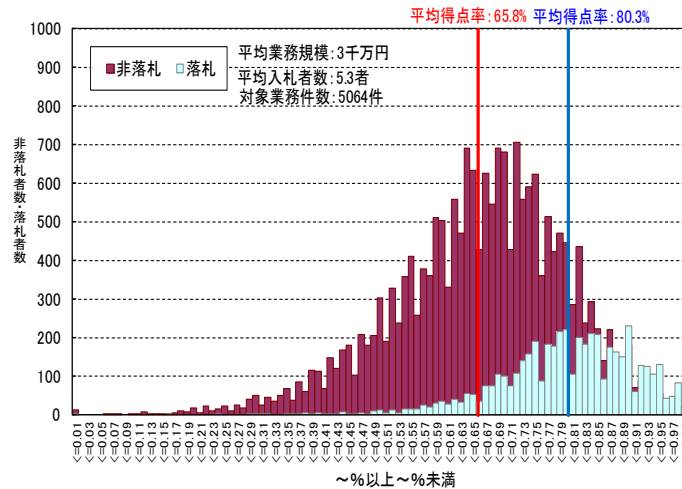
平成21年度

総合評価落札方式 技術点得点の得点率の分布 (全業種計)



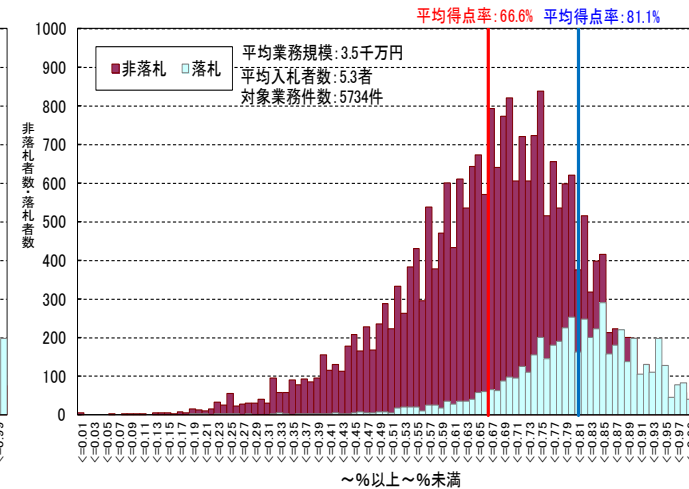
平成22年度

総合評価落札方式 技術点得点の得点率の分布 (全業種計)



平成23年度

総合評価落札方式 技術点得点の得点率の分布 (全業種計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)
注2) 入札者数(非落札者数)に無効・辞退等及び予定価格超過を含まない。

3. 総合評価落札方式の運用実態

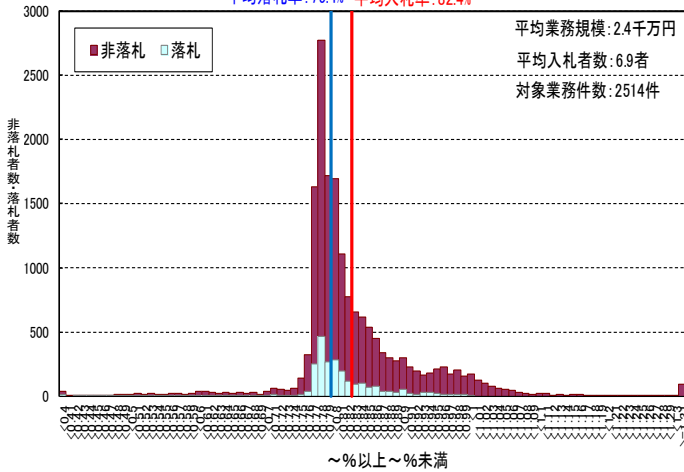
(3) 入札率・落札率の分布（配点比率別：平成23年度）

- すべての配点比率で、落差率と入札率の分布は、調査基準価格付近にピークがある。
- 落札率の分布に関して、1:2と1:3では、1:1に比べて調査基準価格と予定価格の間に存在する落札の割合が高い。
- 1:1では平均入札率が平均落札率を上回っているが、1:2と1:3では平均落札率が平均入札率を上回っている。

価格：技術＝1：1

平成23年度：総合評価落札方式 入札率・落札率分布

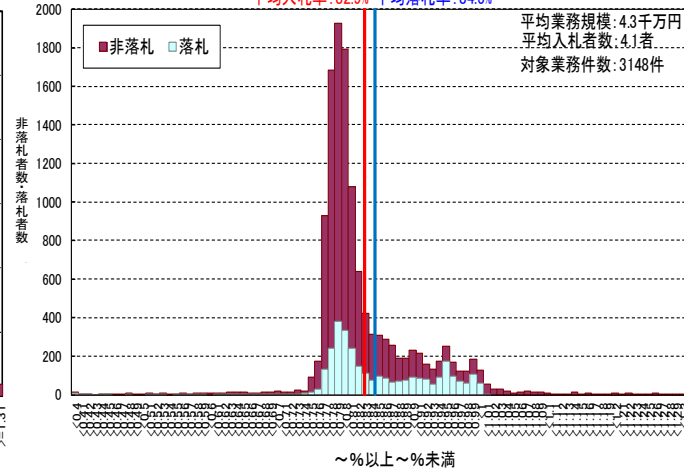
平均落札率：79.4% 平均入札率：82.4%



価格：技術＝1：2

平成23年度：総合評価落札方式 入札率・落札率分布

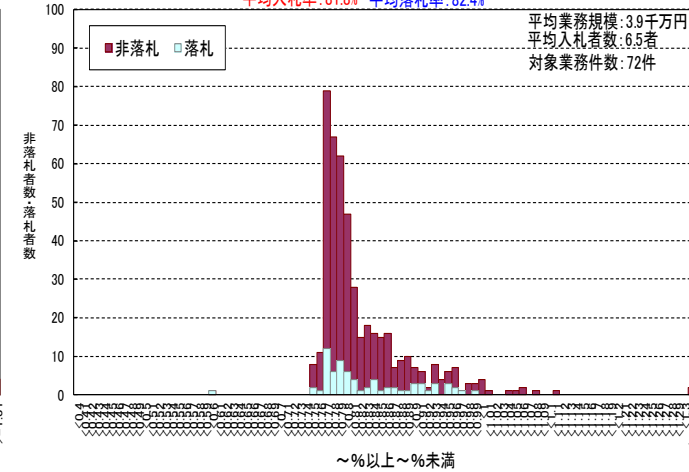
平均入札率：82.9% 平均落札率：84.5%



価格：技術＝1：3

平成23年度：総合評価落札方式 入札率・落札率分布

平均入札率：81.8% 平均落札率：82.4%



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札者数(非落札者数)に無効・辞退等を含まない。

3. 総合評価落札方式の運用実態

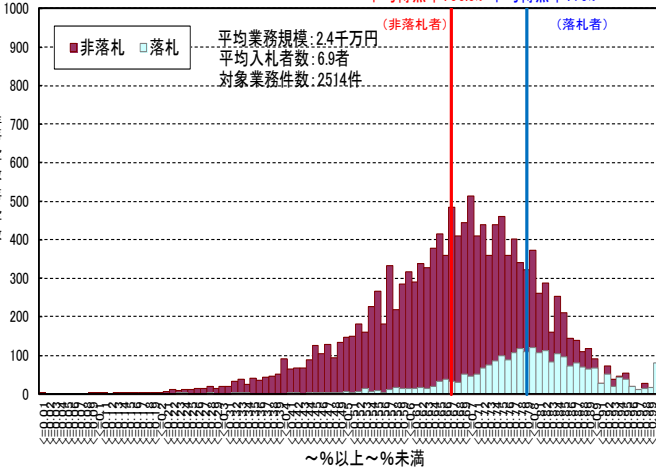
(4) 入札者・落札者の技術点得点率の分布（配点比率別：平成23年度）

- ・落札者と非落札者の技術点の平均得点率の差は、1:2が16.5%で最も大きく、順に1:3で14.1%、1:2で12.1%の順となっている。
- ・非落札者の技術点の分布は、正規分布に近い形状となっている。落札者の技術点の分布については、1:1と1:2が非落札者の分布と同様、正規分布に近い形状となっているが、1:3では分布が偏在していない。

価格：技術＝1：1

平成23年度：総合評価落札方式 技術点得点率分布

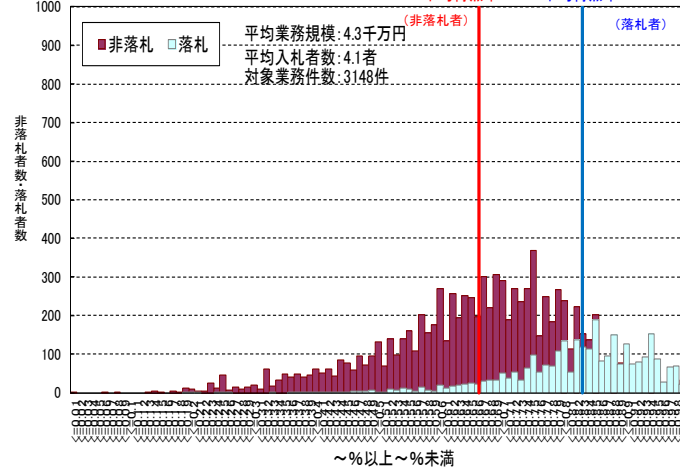
平均得点率：66.9% 平均得点率：79%



価格：技術＝1：2

平成23年度：総合評価落札方式 技術点得点率分布

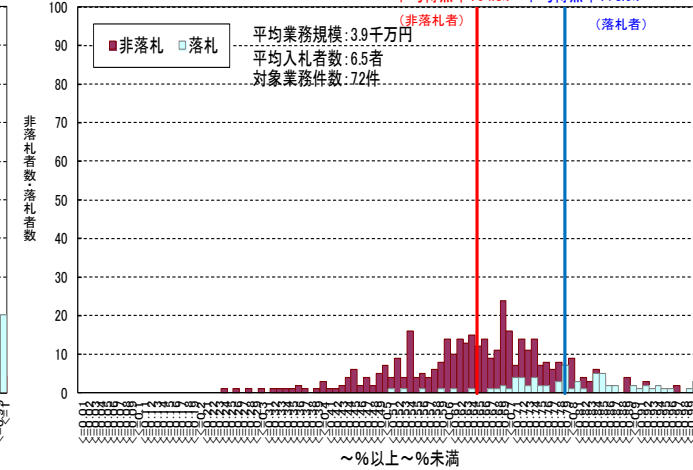
平均得点率：66.3% 平均得点率：82.8%



価格：技術＝1：3

平成23年度：総合評価落札方式 技術点得点率分布

平均得点率：64.8% 平均得点率：78.9%



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)
注2) 入札者数(非落札者数)からは、無効・辞退等及び予定価格超過者を除く。

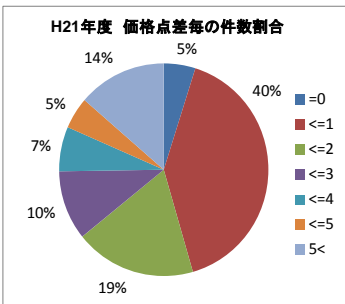
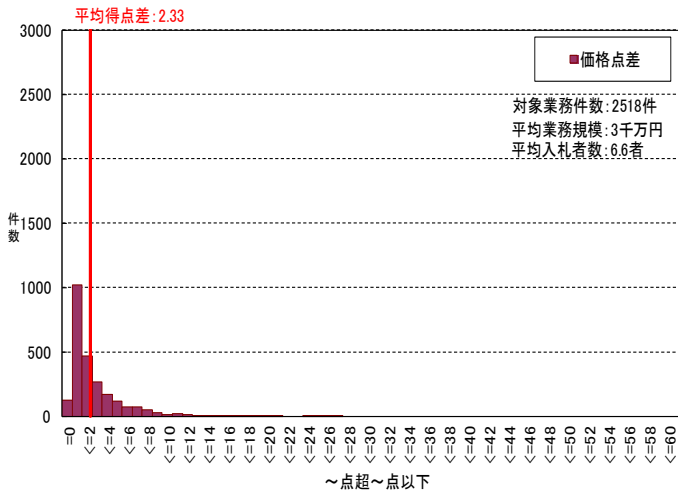
3. 総合評価落札方式の運用実態

(5) 価格点1位と2位の得点差分布（経年変化）

- ・平均業務規模や平均入札者数には大きな変化はないが、価格点の1位と2位の得点差は年々縮小している。
- ・「得点差0～1点」にピークがあり、その傾向は年々強くなっている。「得点差0～1点」の全体に占める割合は、平成21年度：40%、平成22年度：49%、平成23年度：62%と大きく増加しているとともに、得点差ゼロ点（同点）の全体に占める割合も、平成21年度：5%、平成22年度：7%、平成23年度：11%と年々増加している。

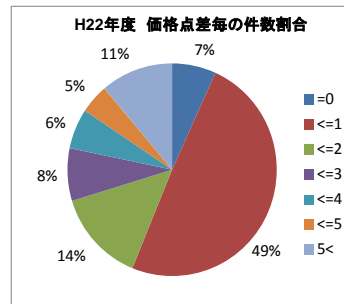
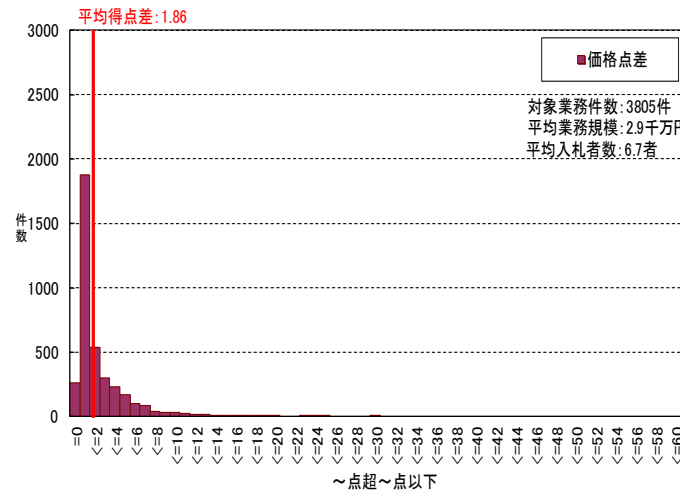
平成21年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



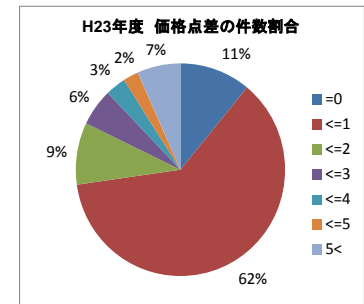
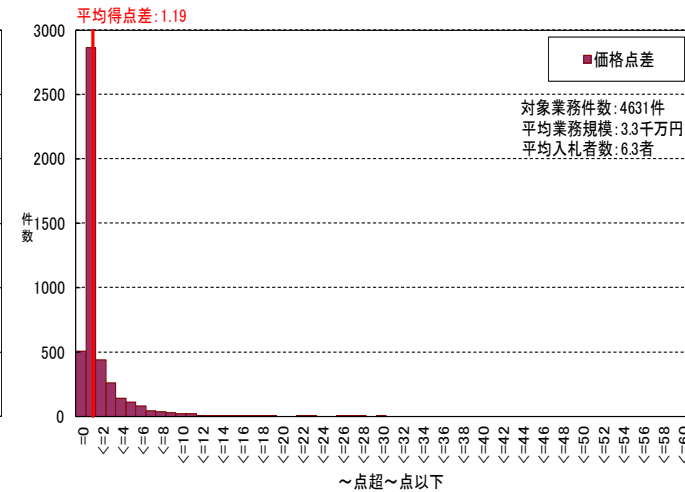
平成22年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



平成23年度

価格評価点の1位と2位の点数差（全業種合計）



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

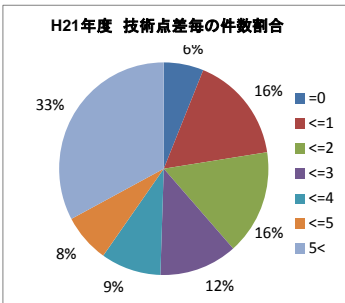
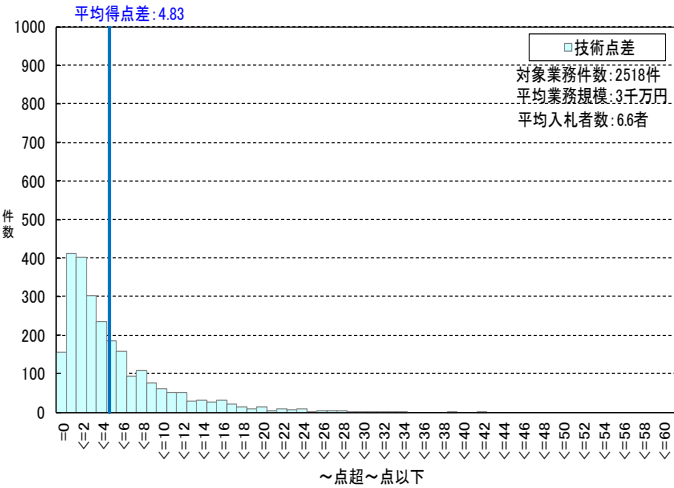
3. 総合評価落札方式の運用実態

(6) 技術点1位と2位の得点差分布(経年変化)

・各年ともに、技術点の平均得点差は5点弱であるが、1位と2位の得点差のピークは「0~1点(全体の16%)」、「1~2点(同16%)」にある。また、ゼロ点差(1位同点)も6~8%存在している。

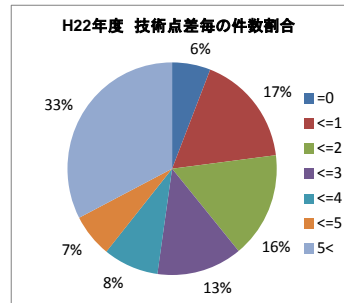
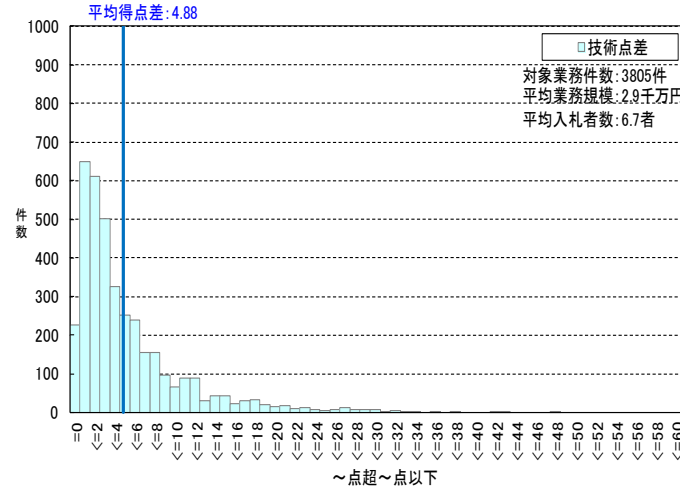
平成21年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



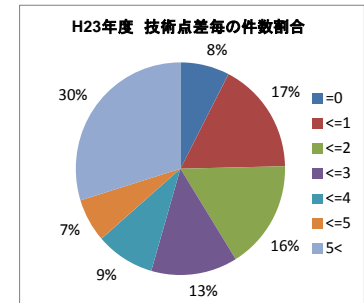
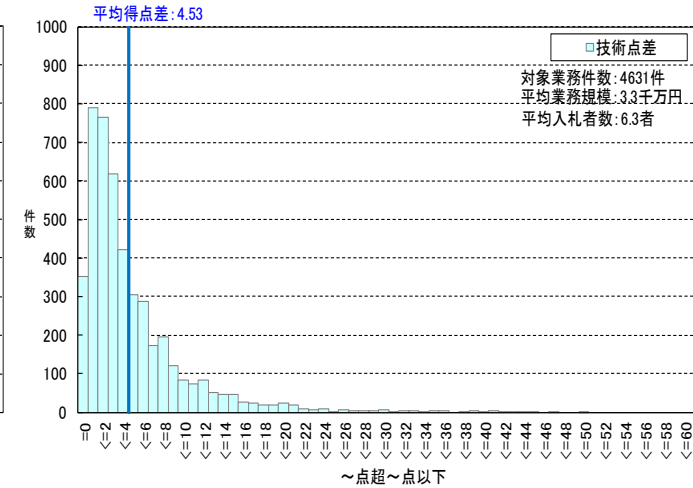
平成22年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



平成23年度

技術評価点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

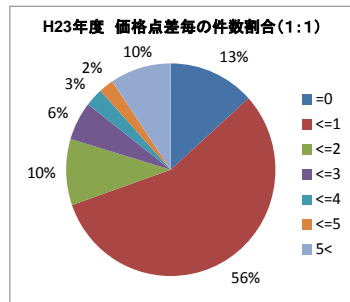
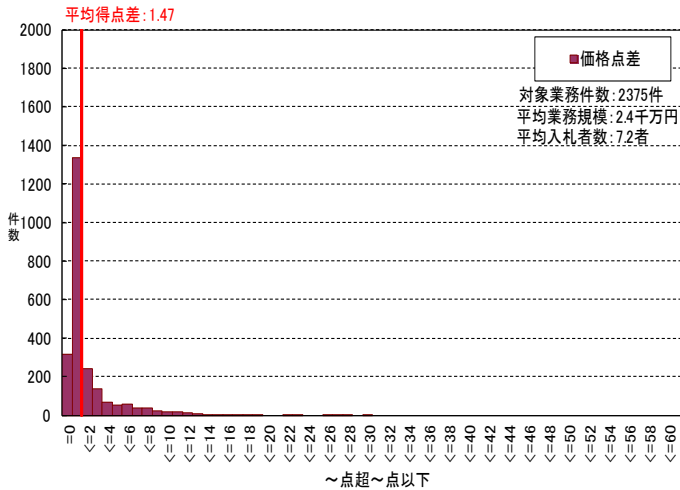
3. 総合評価落札方式の運用実態

(7) 価格点1位と2位の得点差分布（配点比率別：平成23年度）

- すべての配点比率で、価格点の1位と2位の点差が「0～1点」にピークがある
- 技術点の比率が高くなるほど、点差が1点差以内の割合が増加し（56%→67%→80%）、価格点の1位と2位の点差が小さくなっている（平均得点差 1.47→0.91→0.32）。

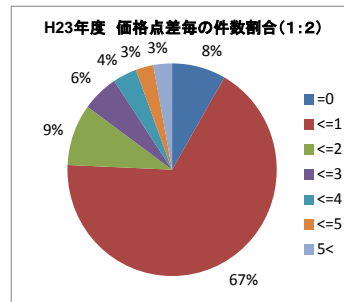
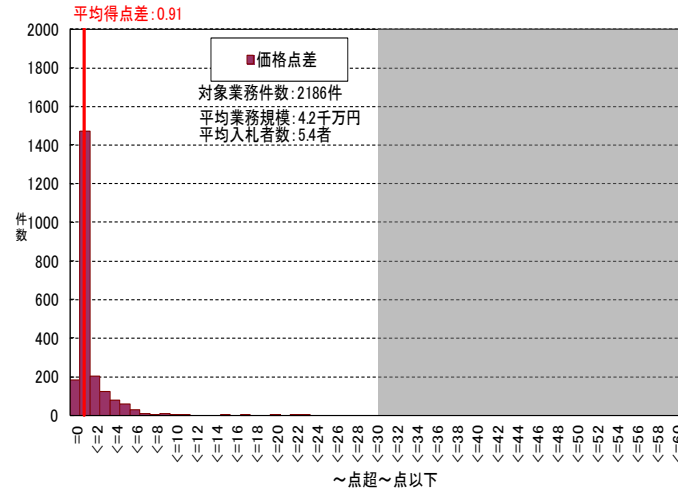
価格:技術=1:1

価格点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



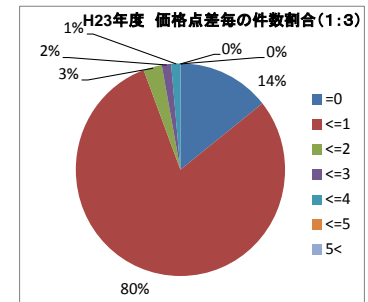
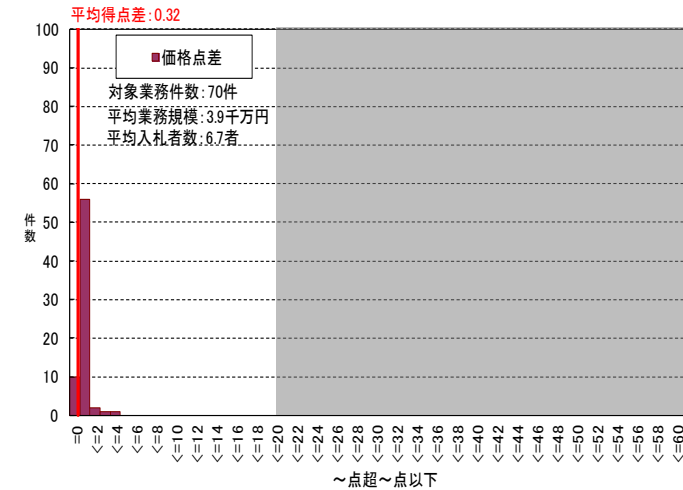
価格:技術=1:2

価格点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



価格:技術=1:3

価格点の1位と2位の得点数差(全業種合計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

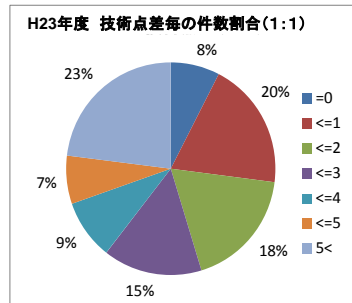
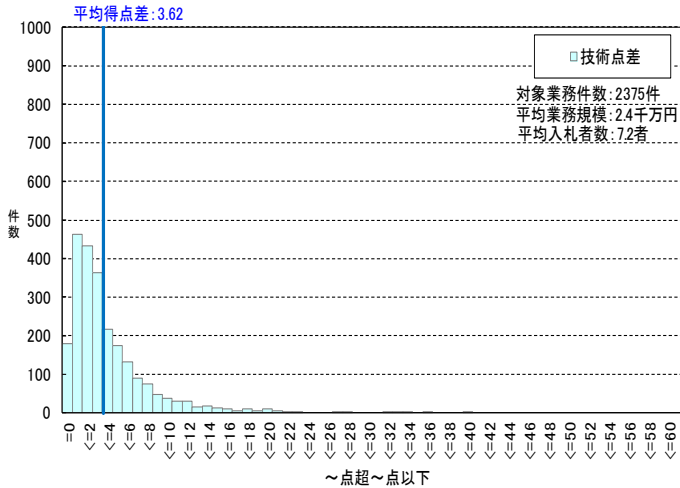
3. 総合評価落札方式の運用実態

(8) 技術点1位と2位の得点差分布（配点比率別：平成23年度）

- ・技術点の1位と2位の差の分布は、1:1は「0～1点」、1:2は「1～2点」、1:3は「2～3点」にピークがある。
- ・平均得点差は、1:1が約3.6点、1:2が約5.6点、1:3が約3.6点となっている。
- ・1:1と1:2には、ゼロ点差(1同点)が8%存在するが、1:3にはない。

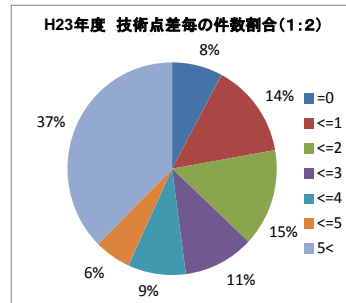
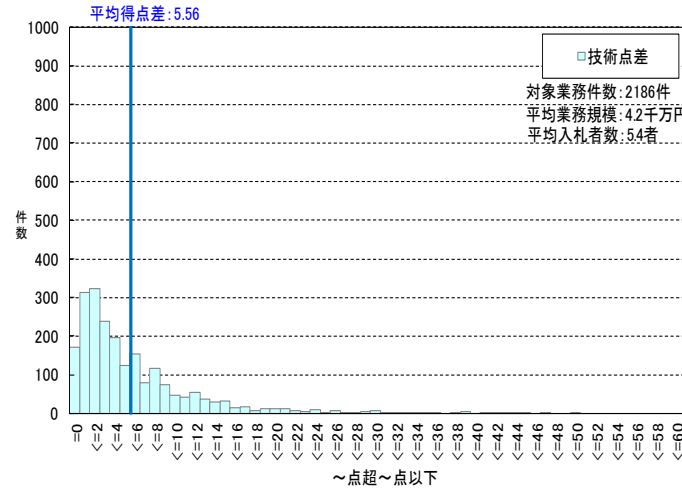
価格:技術=1:1

技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)



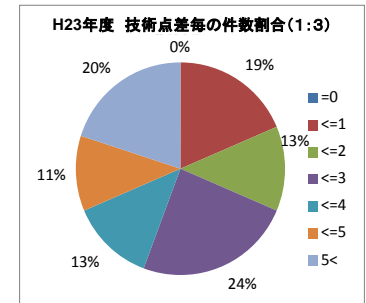
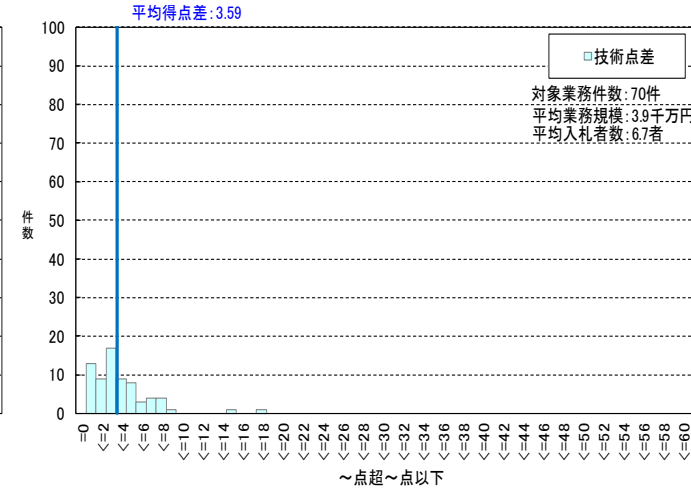
価格:技術=1:2

技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)



価格:技術=1:3

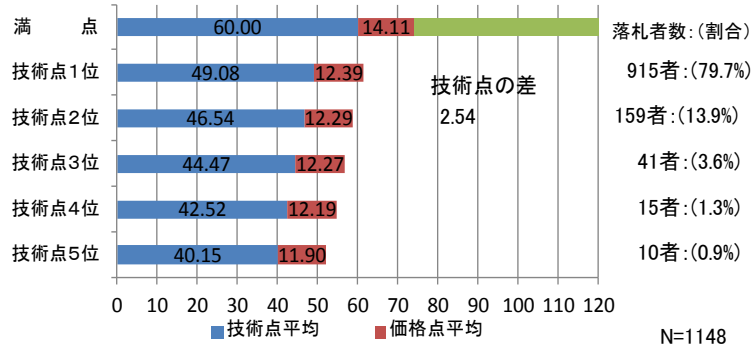
技術点の1位と2位の点数差(全業種合計)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)
注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

3. 総合評価落札方式の運用実態

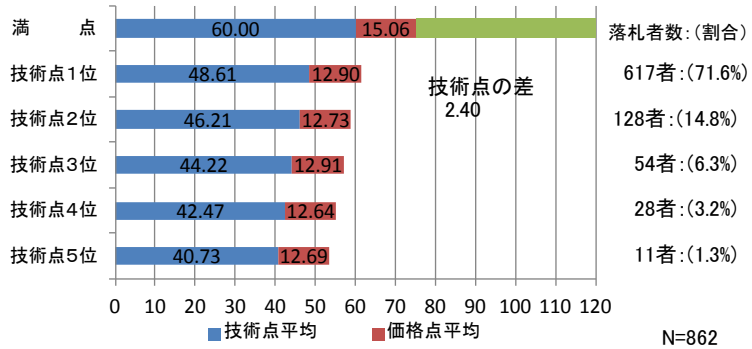
H23総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:1 5者以上入札)



(9) 総合評価(土木、1:1)の平均的な姿と経年変化

・平成23年度の技術点1位の技術点平均は49.08点、価格点平均は12.39点。技術点1位と2位の技術点の差は2.54点、価格点の差は0.11点。

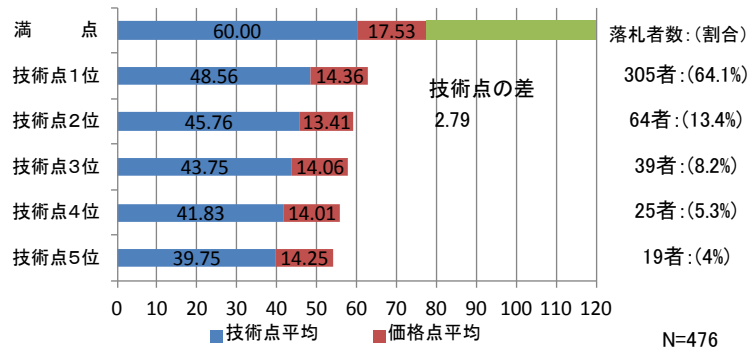
H22総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:1 5者以上入札)



H23 土木 1:1	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	49.08	-	12.39	-	0.79	915 (39) / 1148
技術点2位	46.54	2.54	12.29	0.11	0.80	159 (18) / 1148
技術点3位	44.47	2.07	12.27	0.02	0.80	41 (19) / 1148
技術点4位	42.52	1.94	12.19	0.08	0.80	15 (10) / 1148
技術点5位	40.15	2.37	11.90	0.28	0.80	10 (6) / 1148

調査基準価格率平均: 0.765

H21総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:1 5者以上入札)



H22 土木 1:1	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	48.61	-	12.90	-	0.78	617 (63) / 862
技術点2位	46.21	2.40	12.73	0.17	0.79	128 (30) / 862
技術点3位	44.22	1.98	12.91	-0.18	0.79	54 (26) / 862
技術点4位	42.47	1.75	12.64	0.27	0.80	28 (20) / 862
技術点5位	40.73	1.74	12.69	-0.05	0.80	11 (8) / 862

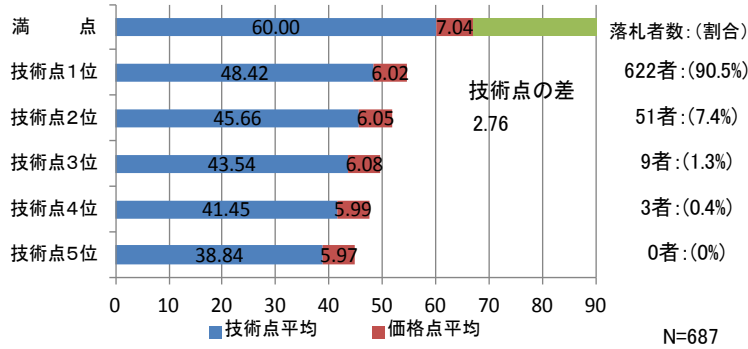
調査基準価格率平均: 0.749

H21 土木 1:1	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	48.56	-	14.36	-	0.77	305 (54) / 476
技術点2位	45.76	2.79	13.41	0.95	0.80	64 (21) / 476
技術点3位	43.75	2.01	14.06	-0.65	0.78	39 (20) / 476
技術点4位	41.83	1.93	14.01	0.06	0.79	25 (14) / 476
技術点5位	39.75	2.08	14.25	-0.24	0.78	19 (13) / 476

調査基準価格率平均: 0.708

3. 総合評価落札方式の運用実態

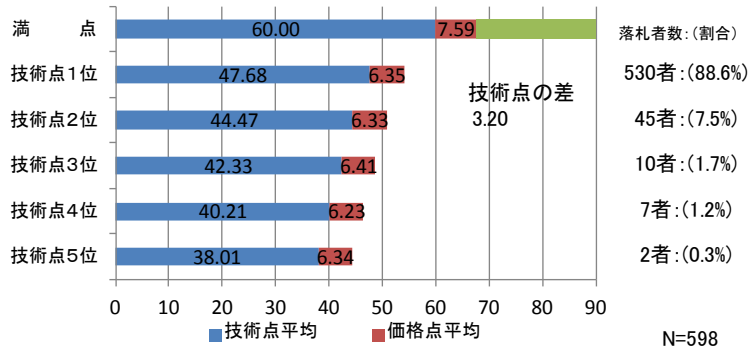
H23総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:2 5者以上入札)



(9) 総合評価(土木、1:2)の平均的な姿と経年変化

・平成23年度の技術点1位のグループの技術点平均は48.42点、価格点平均は6.02点。技術点1位と2位のグループの技術点の差は2.76点、価格点の差は-0.03点。

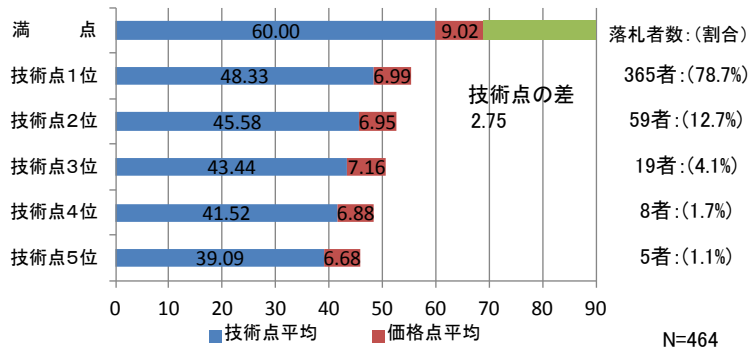
H22総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:2 5者以上入札)



H23 土木 1:2	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	48.42	-	6.02	-	0.80	622 (9) / 687
技術点2位	45.66	2.76	6.05	-0.03	0.80	51 (6) / 687
技術点3位	43.54	2.12	6.08	-0.03	0.80	9 (4) / 687
技術点4位	41.45	2.08	5.99	0.09	0.80	3 (2) / 687
技術点5位	38.84	2.61	5.97	0.02	0.81	0 (0) / 687

調査基準価格率平均: 0.765

H21総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:2 5者以上入札)



H22 土木 1:2	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	47.68	-	6.35	-	0.79	530 (27) / 598
技術点2位	44.47	3.20	6.33	0.03	0.79	45 (14) / 598
技術点3位	42.33	2.15	6.41	-0.09	0.79	10 (8) / 598
技術点4位	40.21	2.12	6.23	0.18	0.79	7 (4) / 598
技術点5位	38.01	2.20	6.34	-0.11	0.80	2 (2) / 598

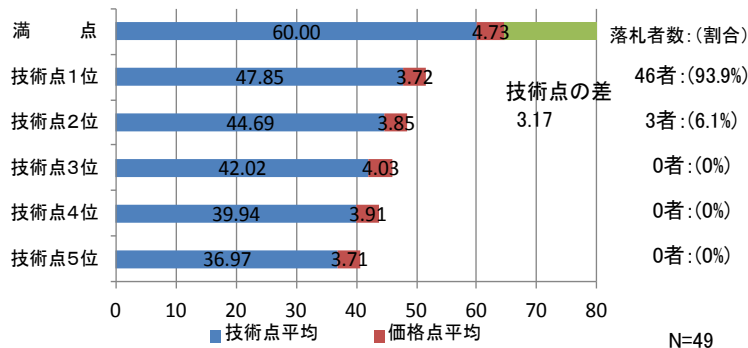
調査基準価格率平均: 0.747

H21 土木 1:2	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	48.33	-	6.99	-	0.77	365 (36) / 464
技術点2位	45.58	2.75	6.95	0.04	0.78	59 (12) / 464
技術点3位	43.44	2.14	7.16	-0.21	0.77	19 (10) / 464
技術点4位	41.52	1.92	6.88	0.28	0.79	8 (6) / 464
技術点5位	39.09	2.43	6.68	0.19	0.79	5 (3) / 464

調査基準価格率平均: 0.699

3. 総合評価落札方式の運用実態

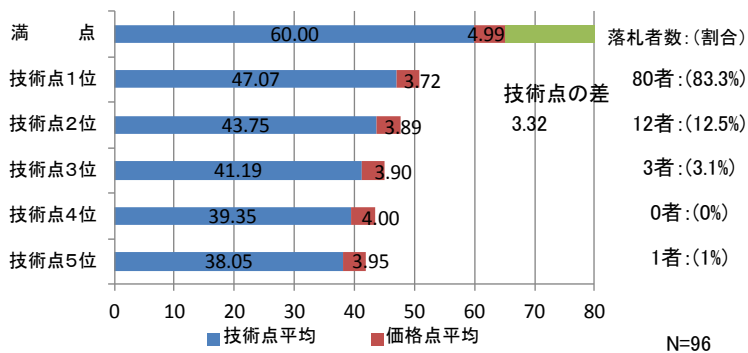
H23総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:3 5者以上入札)



(9) 総合評価(土木、1:3)の平均的な姿と経年変化

平成23年度の技術点1位の技術点平均は47.85点、価格点平均は3.72点。技術点1位と2位の技術点の差は3.17点、価格点の差は-0.13点。

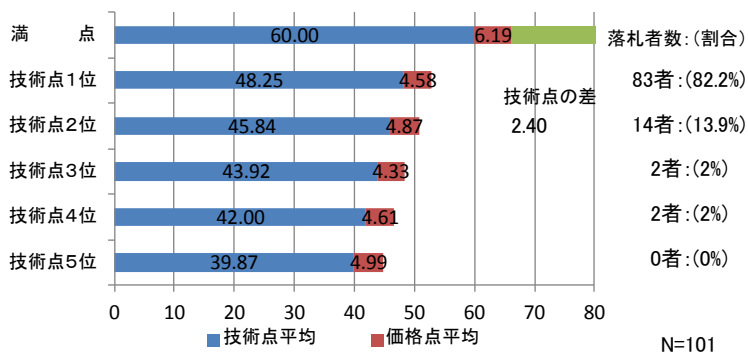
H22総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:3 5者以上入札)



H23 土木 1:3	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	47.85	-	3.72	-	0.81	46 (0)/ 49
技術点2位	44.69	3.17	3.85	-0.13	0.81	3 (0)/ 49
技術点3位	42.02	2.66	4.03	-0.18	0.80	0 (0)/ 49
技術点4位	39.94	2.08	3.91	0.12	0.81	0 (0)/ 49
技術点5位	36.97	2.97	3.71	0.20	0.82	0 (0)/ 49

調査基準価格率平均: 0.764

H21総合評価 技術点順位別技術点・価格点平均
(土木 1:3 5者以上入札)



H22 土木 1:3	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	47.07	-	3.72	-	0.81	80 (3)/ 96
技術点2位	43.75	3.32	3.89	-0.17	0.81	12 (2)/ 96
技術点3位	41.19	2.56	3.90	-0.01	0.80	3 (1)/ 96
技術点4位	39.35	1.84	4.00	-0.10	0.80	0 (0)/ 96
技術点5位	38.05	1.30	3.95	0.05	0.83	1 (1)/ 96

調査基準価格率平均: 0.750

H21 土木 1:3	技術点平均	技術点の差	価格点平均	価格点の差	平均応札率	落札者数 (うち低入落札者数) /業務件数
技術点1位	48.25	-	4.58	-	0.77	83 (6)/ 101
技術点2位	45.84	2.40	4.87	-0.28	0.77	14 (7)/ 101
技術点3位	43.92	1.92	4.33	0.53	0.80	2 (1)/ 101
技術点4位	42.00	1.92	4.61	-0.28	0.78	2 (1)/ 101
技術点5位	39.87	2.14	4.99	-0.38	0.76	0 (0)/ 101

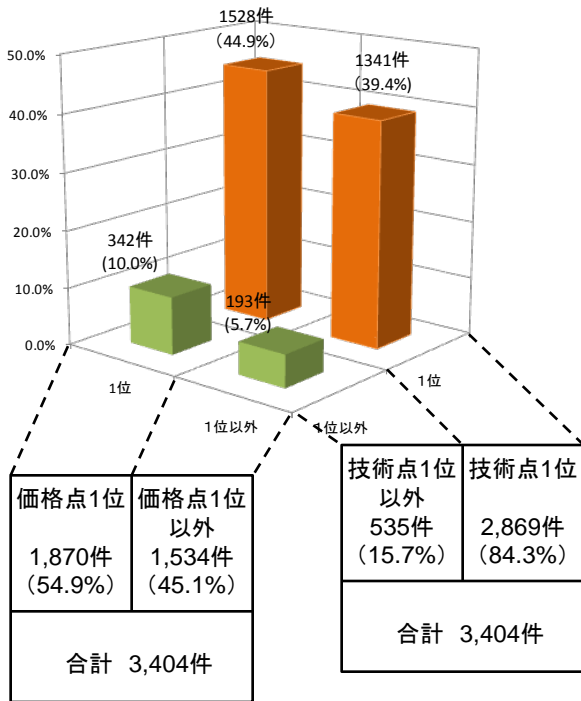
調査基準価格率平均: 0.691

3. 総合評価落札方式の運用実態

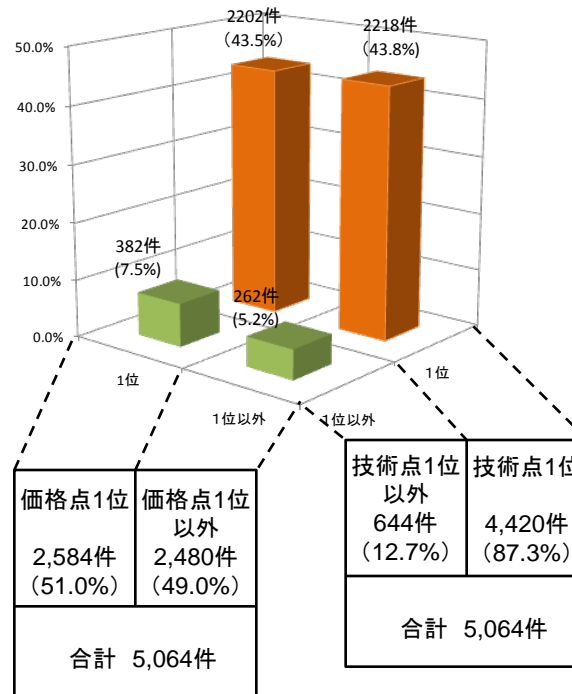
(10) 落札者の状況（順位評価：全体）

- ・価格点1位の者を含め、技術点1位の者が落札した割合は、平成23年度は88.6%で、平成22年度とほぼ同水準であった。
- ・価格点1位以外の者が落札した割合は、経年的に増加しており、平成23年度は53.8%となり、価格点1位の者を逆転した。
- ・主要3業種で技術点1位の者が落札した割合は、平成23年度は、土木88.4%、測量79.3%、地質74.1%となった。
- ・主要3業種でも価格点1位以外の者が落札した割合が高く、土木59.4%、測量59.3%、地質70.3%となった。

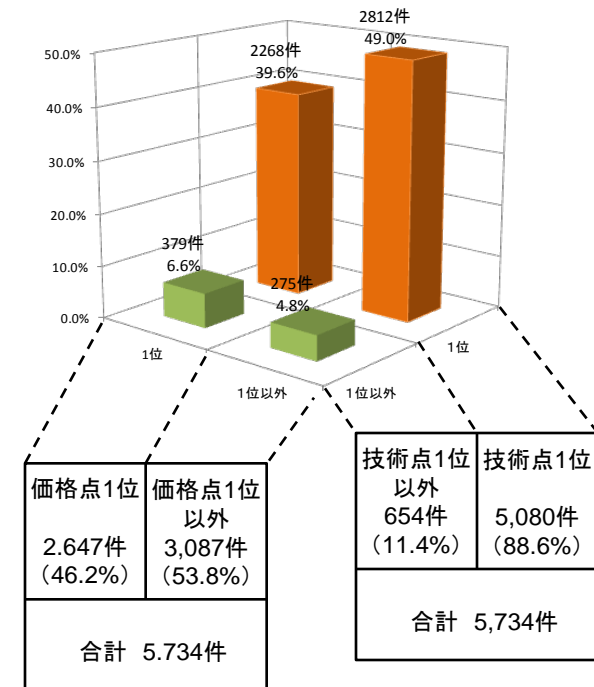
平成21年度



平成22年度



平成23年度



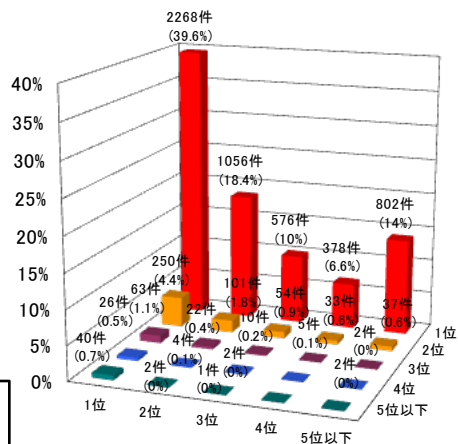
総合評価落札方式 落札者の内訳(全業種合計)

3. 総合評価落札方式の運用実態

(11) 落札者の状況（順位評価：全業種計/土木/測量/地質）（平成23年度）

落札者の内訳(全業種計)

5,734件



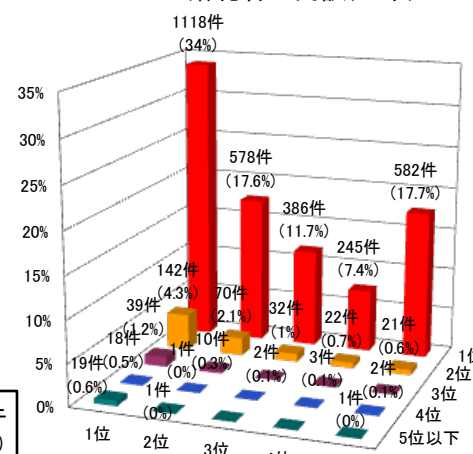
技術点

価格点1位	2,647件	(46.2%)
価格点	3,087件	
1位以外	(53.8%)	

技術点1位	5,080件	(88.6%)
技術点	654件	
1位以外	(11.4%)	

落札者の内訳(土木)

3,292件



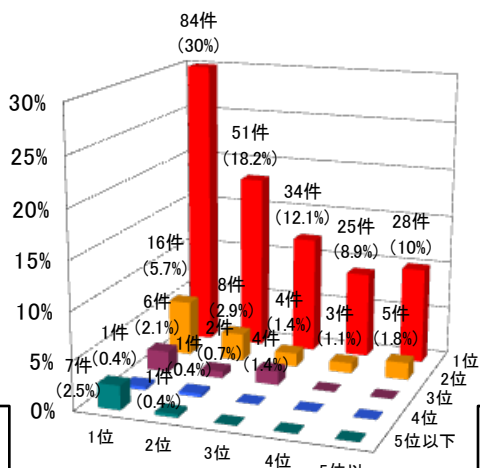
技術点

価格点1位	1,336件	(40.6%)
価格点	1,956件	
1位以外	(59.4%)	

技術点1位	2,909件	(88.4%)
技術点	383件	
1位以外	(11.6%)	

落札者の内訳(測量)

280件



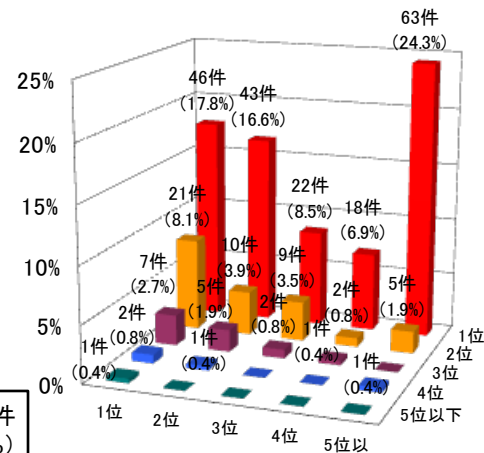
技術点

価格点1位	114件	(40.7%)
価格点	166件	
1位以外	(59.3%)	

技術点1位	222件	(79.3%)
技術点	58件	
1位以外	(20.7%)	

落札者の内訳(地質)

259件



技術点

価格点1位	77件	(29.7%)
価格点	182件	
1位以外	(70.3%)	

技術点1位	192件	(74.1%)
技術点	67件	
1位以外	(25.9%)	

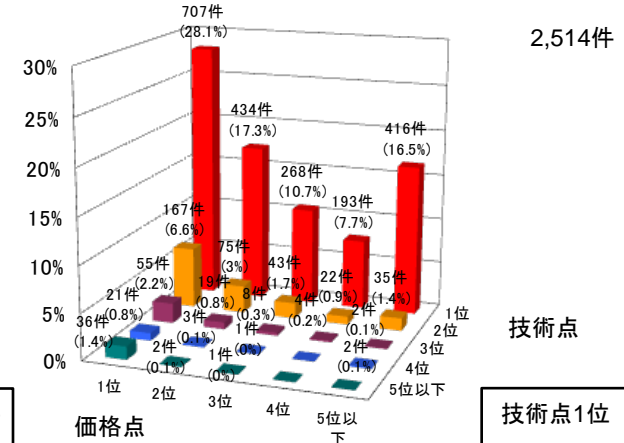
※対象は北海道開発局および8地方整備局発注の全業種合計(港湾・空港を除く)

3. 総合評価落札方式の運用実態

(12) 落札者の状況（順位評価：配点比率別）（平成23年度）

- ・全ての配点比率において、技術点1位の者が落札した割合は80%以上で、1:2で95.1%、1:3で95.8%に達する。
- ・技術点の割合と最低価格者（価格点評価点1位）が落札した割合に関して、明確な関係は見られない。（1:1で39.2%、1:2で52.2%、1:3で26.4%）

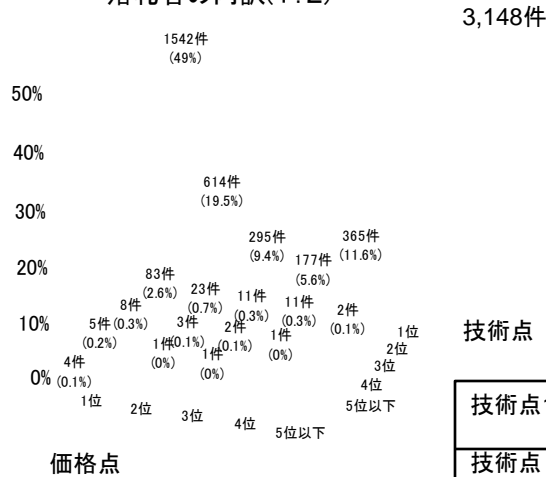
落札者の内訳(1:1)



価格点1位	986件 (39.2%)
価格点1位以外	1,528件 (60.8%)

技術点1位	2,018件 (80.3%)
技術点1位以外	496件 (19.7%)

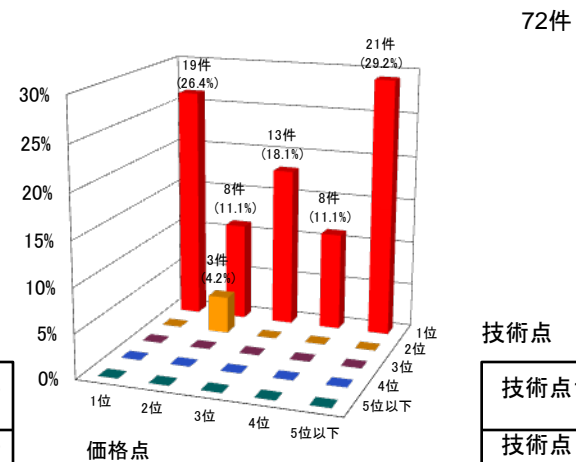
落札者の内訳(1:2)



価格点1位	1,642件 (52.2%)
価格点1位以外	1,506件 (47.8%)

技術点1位	2,993件 (95.1%)
技術点1位以外	155件 (4.9%)

落札者の内訳(1:3)



価格点1位	19件 (26.4%)
価格点1位以外	53件 (73.6%)

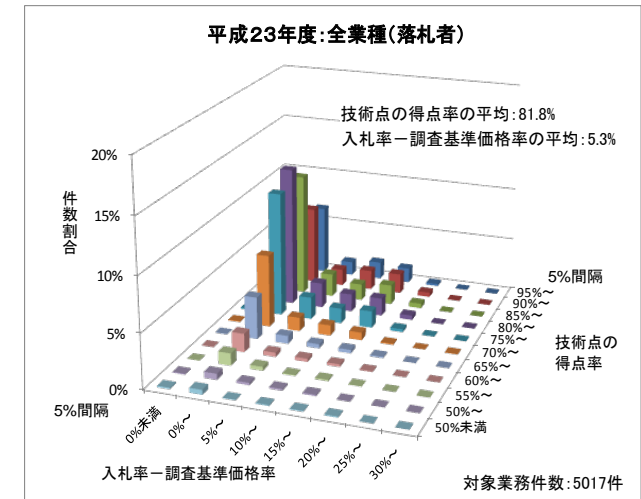
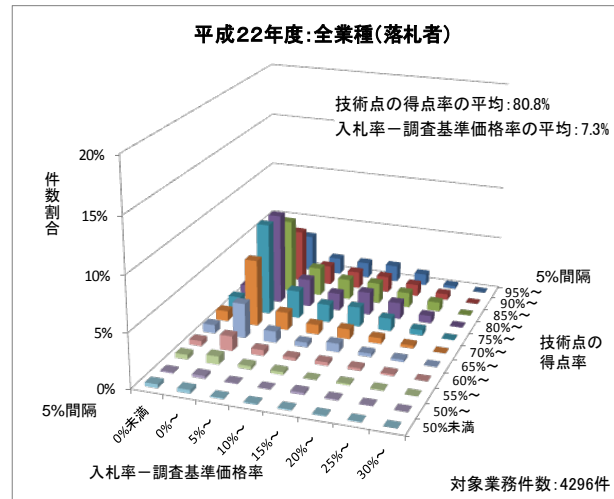
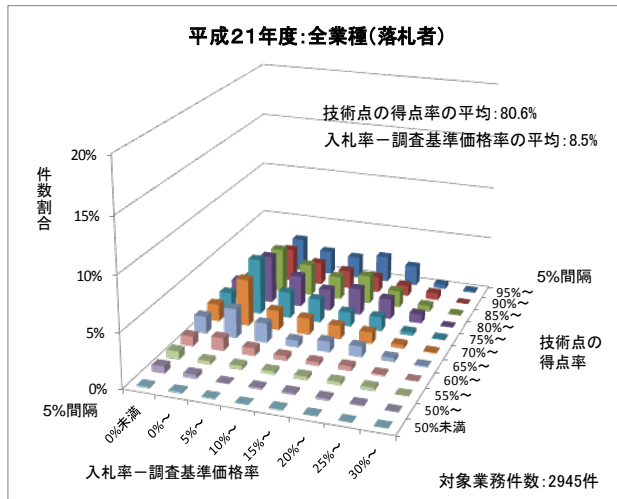
技術点1位	69件 (95.8%)
技術点1位以外	3件 (4.2%)

※対象は北海道開発局および8地方整備局発注の業務（港湾・空港を除く）

3. 総合評価落札方式の運用実態

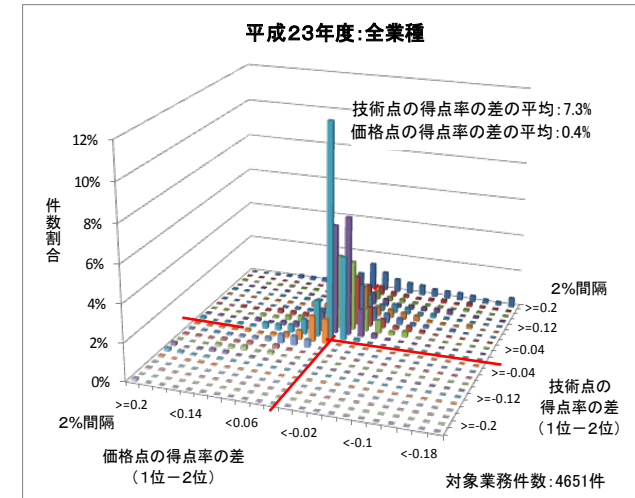
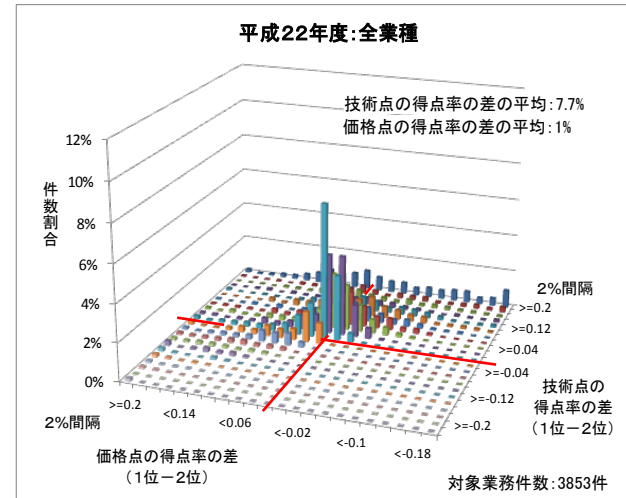
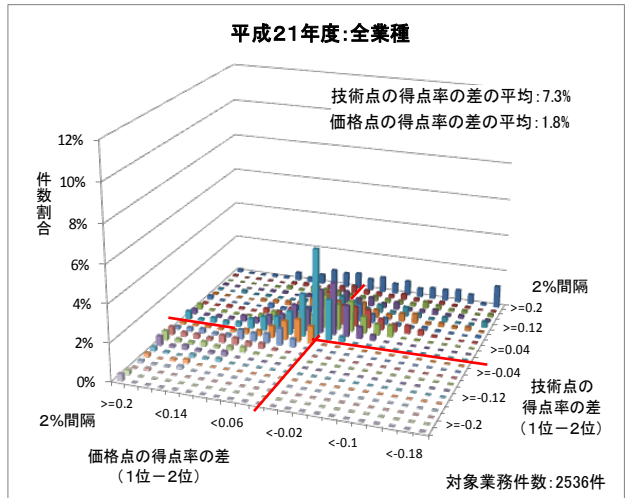
(13) 落札者の「入札率-調査基準価格率」と「技術点の得点率」の関係（経年変化）

- ・落札者の入札率と調査基準価格率の差は年々縮小しており、調査基準価格付近での落札が多くなっている。
- ・技術評点の得点率は、経年的に75～90%の間への集中度が高まっている。



(14) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「価格点の得点率差」と「技術点の得点率差」の関係(経年変化)

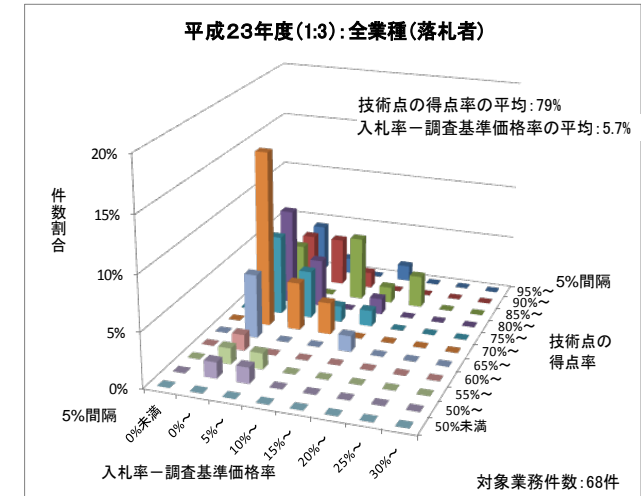
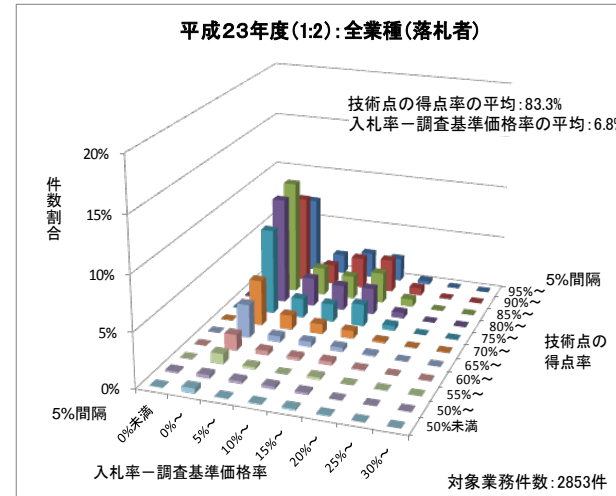
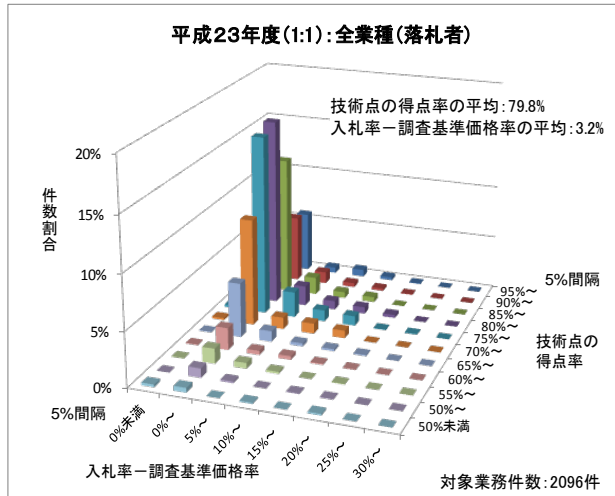
・落札者と次点者の評価値(総合点)の差は年々縮小してきている。技術評価値及び価格評価値はともに、年々、落札者の点数が次点者をわずかに上回る箇所集中する傾向が見受けられる。



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)
注2) 入札価格が予定価格以下の業者が2者以上の業務で分析

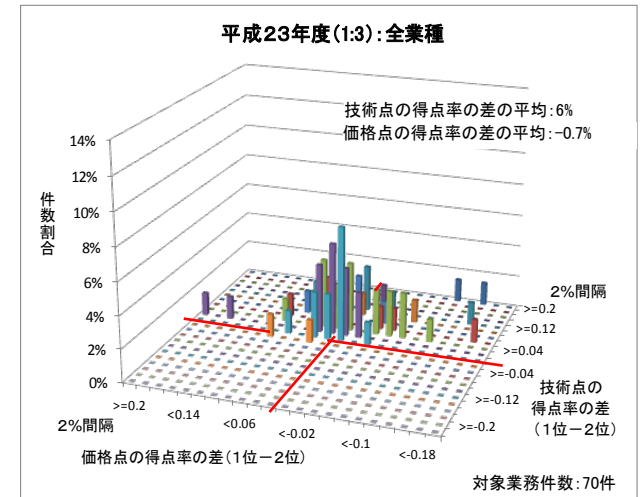
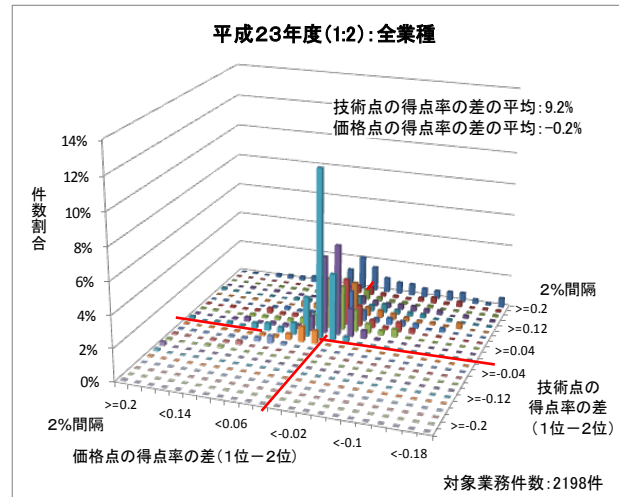
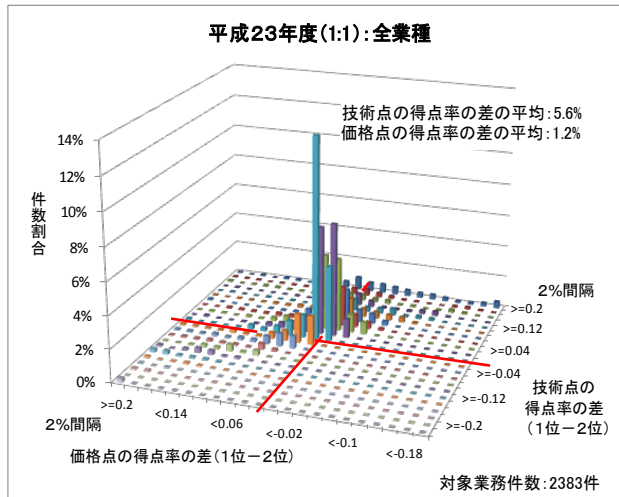
(15) 落札者の「入札率-調査基準価格率」と「技術点の得点率」の関係（配点比率別）（平成23年度）

- ・落札者の価格点については、配点比率にかかわらず調査基準価格付近に集中しているが、技術点の割が高まるほど、その傾向は緩やかとなり、技術点の影響が強くなっている。
- ・落札者の技術点の得点率については、1:1は75～90%、1:2は75～95%、1:3は70～75%に集中している。集中の程度は、1:1は高いが、1:2と1:3は緩やかとなっている。



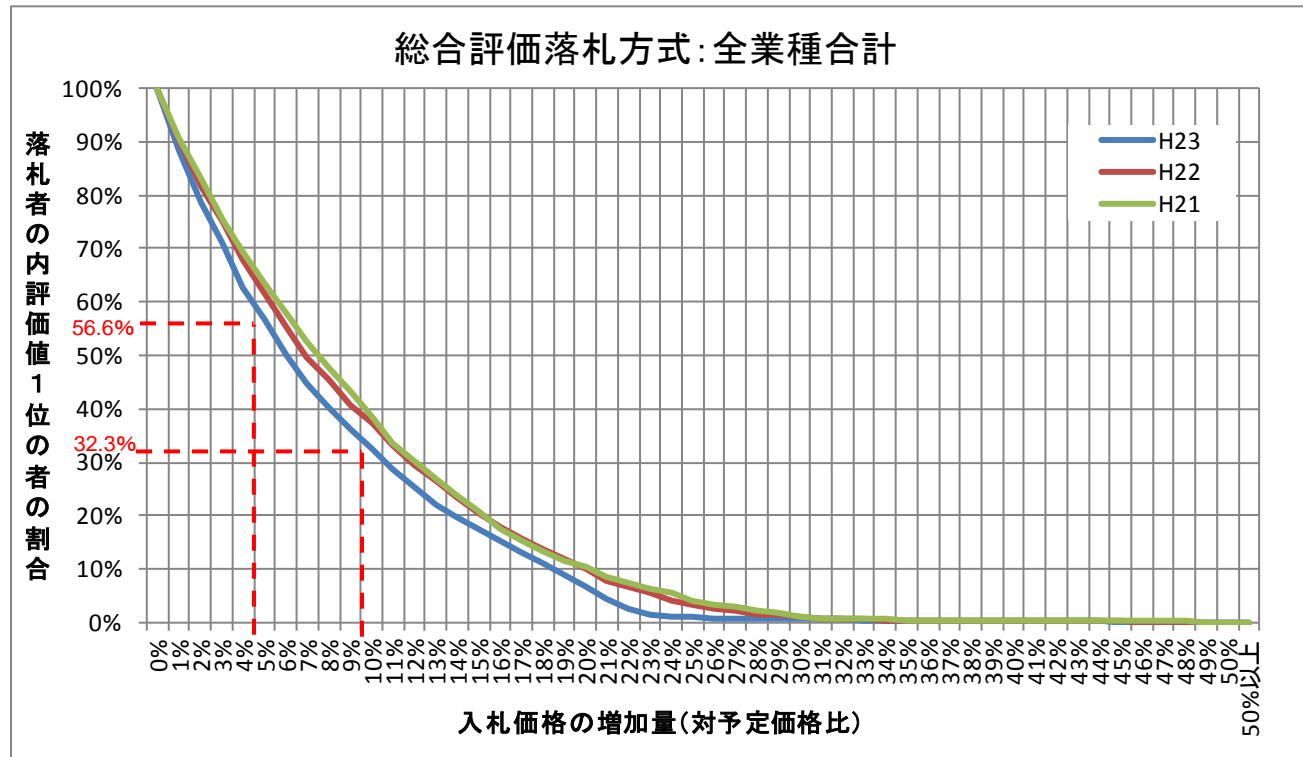
(16) 落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の「価格点の得点率差」と「技術点の得点率差」の関係(配点比率別)(平成23年度)

・配点比率にかかわらず、落札者と次点者の技術点及び価格点の双方で僅差の箇所での集中度が高い。ただし、その集中度は、配点比率が高くなるほど、その傾向は緩やかとなる。



【参考1】落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の逆転可能性シミュレーション(全業種合計)(経年変化)

- ・仮に、落札者が価格点を下げる(入札額を増加させる)とした場合、落札者の何割がなお評価値1位にとどまるか、についてシミュレーションを実施した。
- ・平成23年度データ(全業種)でみると、入札額を予定価格の5%分増加させても約57%の落札者が評価値順位1位を維持し、入札額を予定価格の10%分増加させても約32%の落札者が評価値順位1位を維持することになる。
- ・経年変化をみると、入札額を増加させても評価値1位を維持する落札者の割合は、年々小さくなっている。



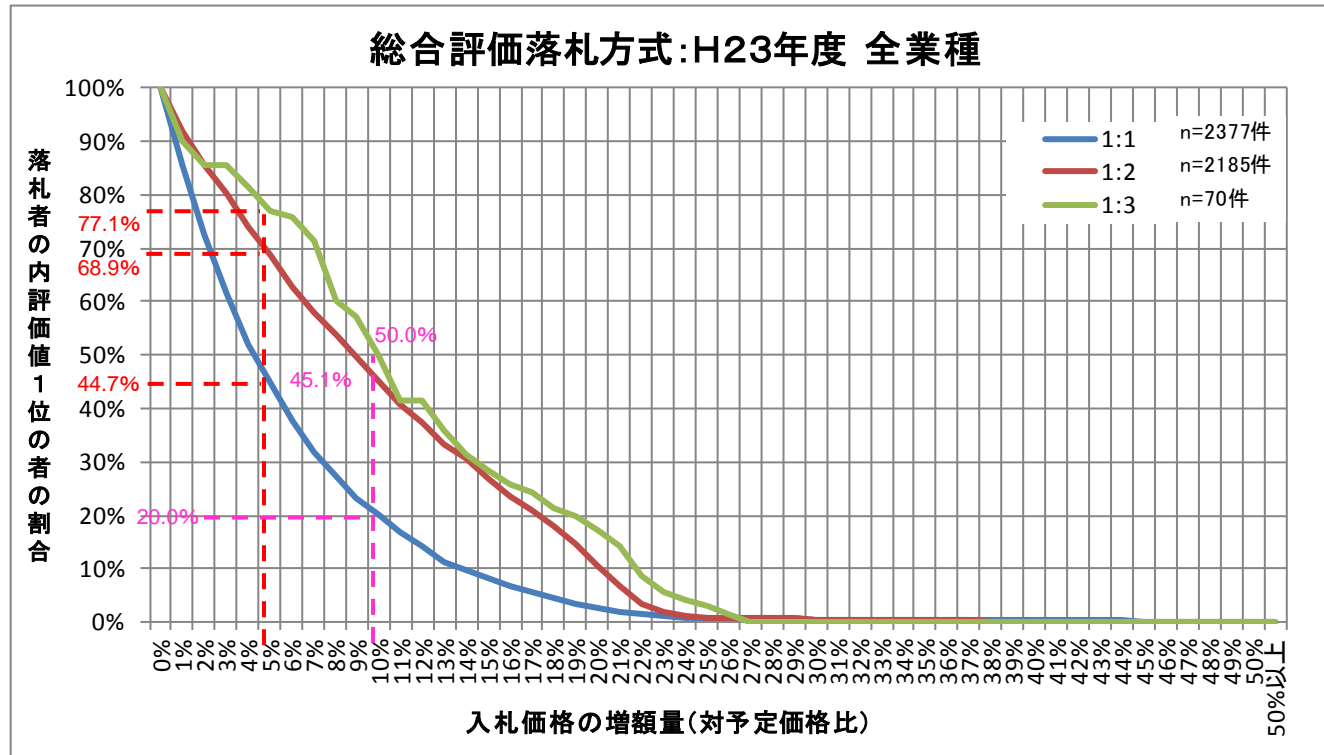
注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

注2) 予定価格以下で入札した企業が2者以上いる業務で分析

【参考2】落札者(評価値1位)と次点者(評価値2位)の逆転可能性シミュレーション

(全業種合計) (配点比率別) (平成23年度)

- ・仮に、落札者が価格点を下げる(入札額を増加させる)とした場合、落札者の何割がなお評価値1位にとどまるかについて、平成23年度データにおいて配点比率別にシミュレーションを実施した。
- ・入札額を増加させてもなお評価値1位である者の割合は、技術点の配点比率が高くなるほど、大きくなる。(例えば、5%増加させた場合は、1:1が44.7%、1:2が68.9%、1:3が77.1%の割合で、評価値1位を維持する。)



注1) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

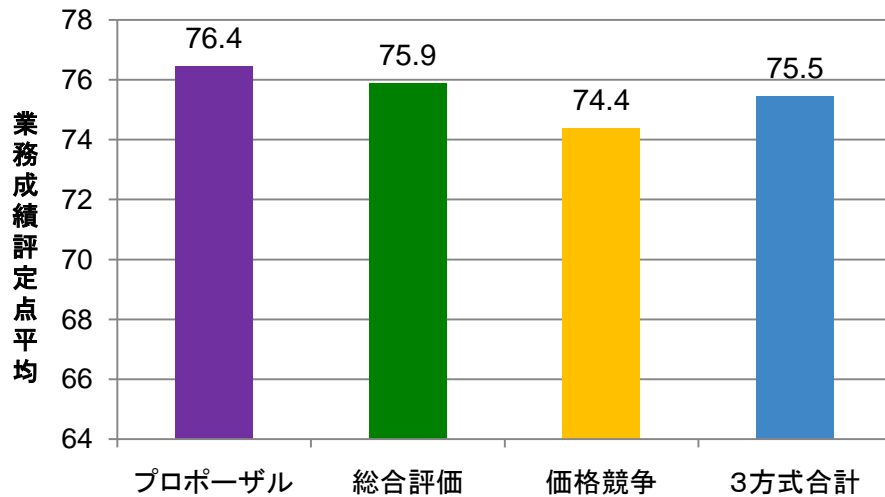
注2) 予定価格以下で入札した企業が2者以上いる業務で分析

4. 業務成績の関係(平成23年度)

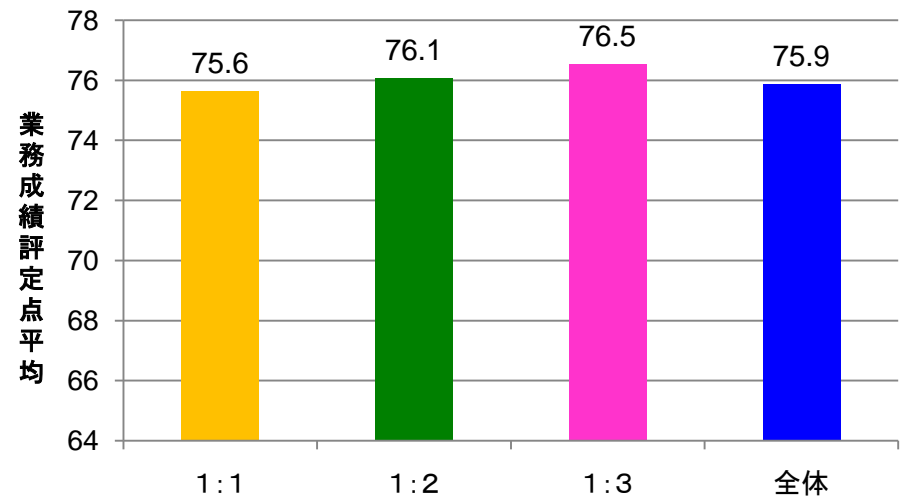
(1) 調達方式・配点比率と業務成績評定点の関係

- 平成23年度のプロポーザル方式の業務成績表定点平均は76.4点、総合評価落札方式の業務成績評定点平均は75.9点となった。これは価格競争(業務成績評定点平均74.4点)に比して、2.0点(プロポーザル)、1.5点(総合評価)高い得点となっている。
- 総合評価落札方式における業務成績評定点平均は技術点の比率が高いほど高くなる傾向があり、業務成績評定点平均で1:3の業務(76.5点)が1:1の業務(75.6点)よりも0.9点高い。

調達方式別評定点平均



配点比率別評定点平均



※) 北海道+8地方整備局の業務を対象。(港湾・空港関係を除く)

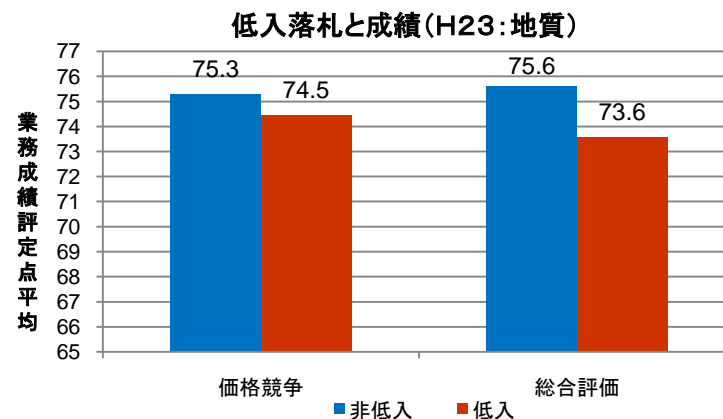
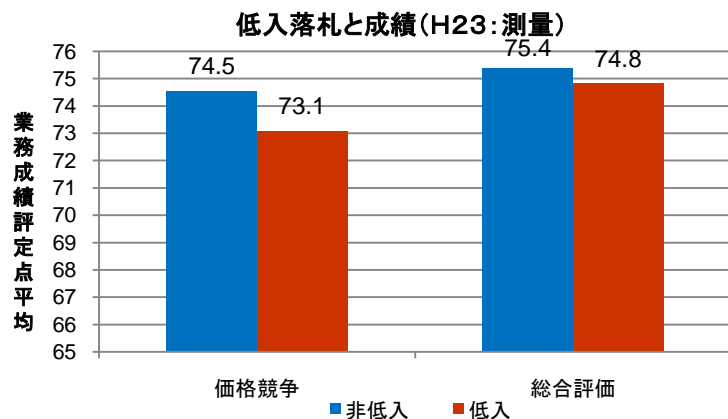
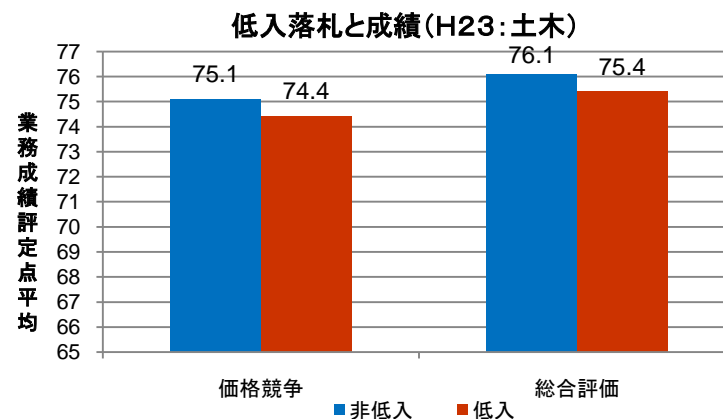
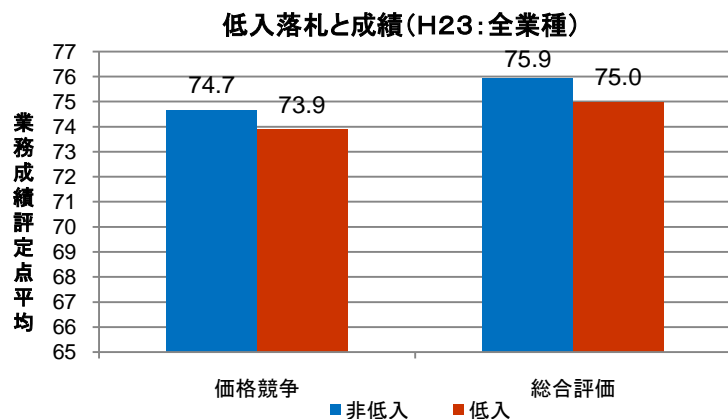
※) 分析対象は、全5業種(土木、測量、地質、建築、補償)で、業務成績評定点のある業務。

プロポーザル方式 2403件、総合評価落札方式(1:1、1:2、1:3) 4497件(2040件、2393件、64件)、価格競争 4041件。

4. 業務成績の関係(平成23年度)

(2) 低入落札・非低入落札と業務成績評定点

- ・低入落札者と非低入落札者の平均業務成績評定点を比較すると、価格競争と総合評価ともに低入落札者の業務成績評定点が低い。
- ・主要3業種についても、低入落札者と非低入落札者の平均業務成績評定点を比較しても、いずれも価格競争と総合評価ともに低入落札者の業務成績評定点が低い。



※ 低入落札業務は、予定価格が1000万円超の業務では、落札価格が調査基準価格を下回る業務、予定価格が1000万円以下の業務は落札率が75%を下回る業務とした。

4. 業務成績の関係(平成23年度)

(3) 技術点の順位と業務成績評定点(配点比率別)(全業種/土木/測量/地質)

- ・技術点1位の落札者と技術点2位以下の落札者の平均業務成績評定点を比較すると、配点比率にかかわらず、技術点1位の落札者の業務成績評定点が高い。
- ・主要3業種についても、技術点1位の落札者と技術点2位以下の落札者の平均業務成績評定点を比較すると、件数の少ない測量及び地質の1:3を除き、技術点1位の落札者の点数が高い。

